

セインのEnglishクリニック！

～さあ英会話が話せない原因を全て解決しよう～





(1)英文法が得意な人

さて、みなさん、問題です！
次のどちらの文がもっとも
よい英文だと思いますか？



I think that it's pointless for you to work at a company which doesn't appreciate the talents that you have.
(あなたが持っている才能を評価してくれない会社で働くのは、無意味だと思います)

Why (do you) work for a company that doesn't appreciate you?
(どうしてあなたを評価しない会社で働くの?)

もし、最初の文がよい文だと思ったとしたら、あなたの英語学習に関する考え方は、少し間違っているかもしれません。日本の学校での英作文の時間なら、最初のほうが100点で、2番目の文の点数は50点くらいになってしまうでしょう。しかし、実際には、2番目のシンプルな言い回しのほうがネイティブには自然に響き、最初の文はとても不自然か感じがします。



最初の英文のように、小難しい言い回しばかり使っていると、ネイティブには自分の知識をひけらかすうぬぼれた人間のように思えてしまいますし、冷たい感じがして親しみも感じさせません。しいには、ネイティブの友人達は、あなたと話すのに嫌気がさすようになってしまうかもしれません。

ネイティブは、ふつうの会話ではわざわざ小難しい言い回しを使わず、シンプルな言い方を効果的に使おうとします。そうすることで、彼らの会話はとてもわかりやすくフレンドリーなものになっているのです。

もちろん、文法の知識を持っていることはとても大切なことですが、会話の中ではあまり小難しい言い回しは必要ないし、かえって悪い印象を醸し出してしまうことを忘れないようにしたいものです。

シンプルかつ、フレンドリーに話す、それがネイティブとの日常の会話ではもっとも大切なことなのです。

どんなものがシンプルで効果的な表現なのか、少し例を挙げて見ておくことにしましょう。





<複雑>

Which one of these books would you be interested in reading?
(この本のどちらにあなたは興味をお示しになるでしょう?)

<単純>

What would you like to read?
(どの本が読みたいですか?)



* わざわざ Which one of these books のように長い表現を用いるのではなく、What一語だけでも十分意味は通じます。
また、be interested in... という熟語を用いるよりも、like to... としたほうがフレンドリーかつシンプル。

<複雑>

This is the cafe that I went to frequently when I was a university student several years ago.
(これが私が数年前、学生だった頃、頻繁に通ったカフェです)

<単純>

I used to come here when I was in college.
(学生の頃よくここに来たものです)



* 関係代名詞 that をわざわざ使う必要はありません。
used to come(よく来た)という表現をすれば、frequently (頻繁に)という意味まで表現できます。



<複雑>

It is an interesting fact that Americans and French don't get along no matter what.

(フランス人とアメリカ人が、どんなことであれうまくいかないというのは興味深い事実である)

<単純>

Americans and French don't get along.

(アメリカ人とフランス人は仲良くできないものだ)



* It...that.... 構文を使ったり、fact(事実)という堅い言葉を使わずとも、ごくふつうの平叙文で事実を述べるだけで十分伝わります。

<複雑>

In my opinion, this is the restaurant which is the best in Tokyo.

(私の考えでは、これが東京では最高のレストランです)

<単純>

This is Tokyo's best restaurant.

(ここが東京では最高のレストランです)



* In my opinion... などと大上段に構えて言う必要はないし、関係代名詞 which まで持ち出し紛らわしい修飾表現を増やすこともありません。



＜複雑＞な英文のほうは、長く説明的ですが、＜単純＞な英文は、それだけで＜複雑＞な英文でいわんとしている内容をきちんと伝えていきます。不要な修飾表現や、婉曲表現、また必要以上に難しいボキャブラリーなどは実際の会話にはあまり必要のないことがわかりいただけるでしょう。繰り返しになりますが、「英語はシンプルに効果的に話せ」という基本を、いつでも頭の中に置いて会話を進めるように心がけることが、英会話上達の近道になるのです。

＜教訓：難しい文法はいらない。英語はシンプルに話せ＞





(2) 単語をたくさん覚える人

That'll be the day. というフレーズの意味はわかりますか？

味音痴の日本人が、ネイティブの友人に向かって「自分は超一流のシェフになるつもりだ」と公言したとき、それを聞いたネイティブ氏、「ハハハ」と鼻で笑いながら**That'll be the day.**と言ったのだそうです。しかし、これを聞いた日本人のAさん、**That'll be the day.** というフレーズを「将来そんな日も来るかもね」というほめ言葉だと思い込んでしまったのだそうです。

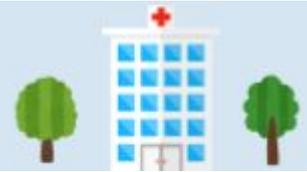
しかし、実際にはこの **That'll be the day.** は「**そんなことあり得ない**」という意味のひとことなのです日本人男性は **Thanks.** (ありがとう) と返事をしたらしいのですが、けなしたはずなのに感謝されたネイティブ氏のほうでは、おかしい奴だとあきれかえってしまったという話。

でもこれは単なる笑い話ではないのです。この逸話こそ日本人の英語力のおかしな偏りをととてもよく表しているからです。この **That'll be the day.** のように簡単な文はわからない日本人はとて多いのですが、これとほぼ同じ意味になる次の文は、日本人にはよくわかるのです。これはどういうことでしょうか？

The possibility of that happening are very small.
(そうなる可能性は非常に小さい)

この文には、**possibility** (可能性) あるいは **happen** (起こる、生起する) といったやや難しい単語が含まれていますね。しかし、日本人は受験勉強の成果か、この表現なら十分に理解できるのです。これはネイティブにとってはやはり不思議なことです。難しいボキャブラリーを使った文は得意でも、簡単なボキャブラリーを組み合わせた実用的な英語が分からないのですから。



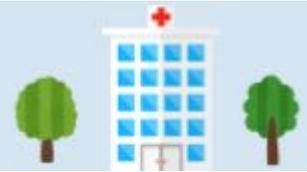


日本人はこのように、簡単な単語の組み合わせでできあがっている口語表現の知識が大きく欠けていて、その代わりに、難しい単語をたくさん口にするすることでそれを補おうとする傾向にあるのですが、実際のネイティブ同士の会話では、やはり、最初のThat'll be the day. ような言い方での方が自然であるのは間違いのない事実なのです。この結果、いつまで経っても、日本人の中には、小難しいことは多少言えても簡単な日常会話もできない人が数多く存在することになるのです。

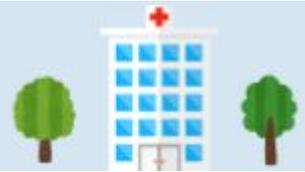
では、この日本人の英会話力の偏り、どうすれば解決できるのでしょうか？当然の事ながら、難しいボキャブラリーを覚える前に、簡単な単語の組み合わせでできあがるフレーズをたくさん覚えてしまうのが、日常英会話上達の近道なのです。とても単純ですが、これまで、日本人がこのことに気づいていなかっただけなのです。

次の例はいずれも、上の複雑な言い回しの英語を、下で簡単な単語だけを使って言い換えています。簡単な中学レベルの英単語が、以下に会話で役に立つのかを、例を見ながら実感してみましょう。

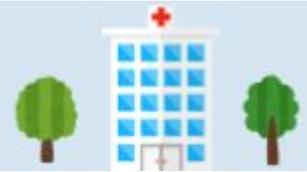
How is your condition?	あなたのコンディションはどうですか？
Are you feeling okay?	具合はどう？
Let me contact you later concerning that matter.	この件に関してはあとで連絡させてください
Let me get back to you on that.	それについてはあとで連絡しますよ
Do you find this credible?	これは信用できると思いますか？
Do you believe this?	これ信じられますか？
I'm already aware of that fact.	そのことにはもう気づいてますよ



You're telling me.	百も承知です
Don't let what I'm doing irritate you.	私のすることで気をもまないでください
Don't mind me	私のことは気にしないで
Give him my regards.	彼によろしく言ってください
Give him my best.	彼によろしく
Make an attempt.	試してみましょう
Have a go at it.	やってみよう
I know that you are trustworthy.	君は信用に足る人物だよ
I believe in you.	君を信じてるよ
I am capable of accomplishing it.	私にはそれを完了する能力があります
I can do it.	ぼくにはできます
I have cordial feelings for you.	私は君に思いやりの気持ちを抱いています
I care about you.	君のこと気にかけてるよ
I suppose that is credible.	信用できるだろうとは思いますが
I guess so.	そうだと思います
The caller is requesting you.	電話をかけてきた人が君を要求している
It's for you.	君に電話だ



It's not as dreadful as you assume.	君が想像しているほどひどくはありません
It's not so bad.	それほど悪くはないよ
Please ignore what I just said.	いま私の言ったことは無視してください
Never mind.	気にしないで
You are correct about that point.	その点について、あなたは正しい
Right on.	そのとおり
I comprehend what you said.	あなたの言ったことを理解していますよ
I'm with you.	わかります
I explained to you the consequences.	私は結果を説明しておいた
I told you.	言ったでしょう
We finalized our relationship.	われわれは関係をおしまいにした
We broke up.	われわれは別れた



◆ 10 単語で出きる英会話

次に、簡単な10単語の組み合わせだけでできる日常の英語表現の例を少し挙げてみましょう。みなさんは、次のうちいくつを知っているでしょうか？以下の表現は、ネイティブなら小学生でも知っているものばかりです。

Can I have it?	もらっていい？
Can you make it?	来られる？
Can you try?	やってみてもらえる？
Could I try?	やってみてもいい？
Could you do it?	やってもらえますか？
Did you make it?	自分で作りましたか？
Did you make it?	間に合った？
Did you try?	本当にがんばったの？
Do you have it?	持ってる？
Have you done it?	終わりましたか？
I am doing it.	やっていますよ
I am trying.	がんばっているよ
I can do it.	私ができる
I can make do.	何とかなります
I can make it.	間に合うよ
I can try it.	やってみてもいいけど。
I could do it.	やってほしいならやりますけど。



I could try.	やってみてもいいけど
	やってみてあげてもいいけど
I have it!	いい案がある！
I tried.	(試したけど)だめだったのよ
I will try to make it.	できれば行きます
I would do it.	私だったらやります
I've tried it.	やってみただけど
Is that what you did?	あなた、それをやったの？
It will do.	それはなんとか使える
Make a try.	一回試してみてください。
Try it.	やってみて。
Try making it.	できれば来てよ
What are you doing?	何にをやってるの？
What are you making?	何にを作ってるの？
What can I do?	どうにもならないよ
What can I do?	何にか手伝いましょうか？
What could I do?	どうにもならなかったさ
What could I have done?	どうすればよかったって言うの？
What did you do?	何をしたの？
What did you have?	何にを食べたの？
What do you do?	お仕事は？
What do you make?	お給料はいくら？



What have you done?	何にをしてしまったの？
What is it?	何、それ？
What will you do?	これからどうします？
What will you have?	何にをします [食べます] か？
What would you do?	あなただったらどうする？
Would you do it?	あなただったらやる？
Would you do it?	やってくれない？
You can have it.	あげる。
You can make do.	何とかやってよ。
You could do it.	あなただったらできるだろう。
You could have tried.	がんばればよかったのに。
You did it!	やった！
You did it.	お前がやったんでしょう。
You do it.	あなたがやってよ。
You have it!	そのとおり！
You try it.	あなた、やってみてよ。

いかがでしょうか？シンプル英語の威力がおわかりいただけただけでしょうか？中学生にもわかる単語を10個使っただけでも、これだけの表現ができるのです。表現に使用した単語は次の10個だけですから、中学1年生レベルのものばかりですね。

1. I
2. can
3. be
4. have
5. make
6. it
7. try
8. you
9. what
10. do





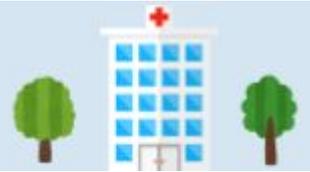
ここでお話しした、シンプルな単語で多くを話すこと、これは日常英会話上達の重要なコツのなかでももっとも重要視すべきもののひとつです。実際には20単語覚えただけで英会話表現の25%をカバーできると聞くと、みなさんは驚きになるでしょうか？

**the, and, to, I, you, a, is, it, that, of, in, what, he,
this, have, do, she, not, on, they**

これらの単語を使うだけで、英会話のなんと1/4ができてしまうのです。難しい単語をたくさん覚えようと懸命に努力しているみなさん。それ以前にやさしい単語を存分に会話に活かす努力を、まず行ってみるほうが英会話上達への確実な近道なのです。

<教訓：英語は簡単な単語ではなせば十分>





(3)素直な人は英語ができない

アメリカ映画の中で、俳優が窓の外を眺めています。外は土砂降りの雨。彼はその日、仲間といっしょにゴルフに出かける予定でした。せっかくの親しい仲間とのゴルフがぶちこわしです。俳優は、英語でThat's great.とつぶやきます。字幕には「これはすばらしい」と出ています。しかし、ここで「あれ、なんだか変だ」と思い当たる人と当たらない人とでは大違いです。思い当たった勘のいい人は英語が上手になる人。何とも思わず字幕を素読みしてしまう鈍感な人は決して英語上手にはなれません。

実はこの場合の That's great. は文字どおりの「それはすばらしい」という意味などではないのです。本当はこの俳優、That's great.というフレーズを使って、「最悪だ」といったかったのです。この That's great. の例もそうですが、英語には文字どおりの意味だけで解釈しては、てんで意味不明なフレーズがたくさんあります。もちろん That's great.は「すばらしい」という意味でも使えるのですが、この場合は状況から推して、「すばらしいじゃないか」という言葉を皮肉っぽく使って、反対の「最悪じゃないか」という意味を出そうとしているのだと解釈できなければならないのです。

実際、ネイティブが That's great. というとき、「すばらしい」という意味で使う頻度はかなり小さく、「最悪、最低」という意味で使う場合が 90% 近くにも昇ります。日本語でも、いろいろな言葉の技巧がありますが、英語も日本語に負けず劣らず、言葉の表面だけでは読み取りにくい言語なのです。

ですから、この章のタイトル「素直すぎる人：英語を文字どおりに解釈してしまう人」は英語ができない人ということになります。ネイティブと話したりするときには、勘が十分に働かせ、その場の状況を把握しつつ相手の言葉を理解しなければいけません。





素直すぎて、文字どおりにしか言葉を解釈できない人は、特に英語の理解力がなかなか伸びてこないのです。

次にネイティブが頻繁に使う皮肉なセリフを取りあげてみましょう。どのくらいネイティブが文字面と異なることを言っているのか、実感できるはずです。

◆Like...やAs if...で始まるフレーズは皮肉がほとんど

Like, ... や As if... で始まるフレーズのほとんどは皮肉です。以下の like や as if を使ってネイティブが表現しようとしているのは、「まるで～みたいだね」「まるで～だとでも言っているみたいだね」という皮肉っぽい気持ちです。

Like, you know what you're talking about.

君は自分の話していることがわかっているみたいだね

Like, someone's going to give you a job.

だれかが君に仕事をくれるみたいだね

Like, you're going to become famous.

君は有名になるみたいだね

As if it's always cold in Hawaii.

ハワイはいつでも寒いみたいに言うね

As if I haven't had enough to eat already.

ぼくがまだあんまり食べてないみないなと言うね

As if I'm really interested.

ぼくがかなり興味を示しているみたいに言うね



◆so-called がつくフレーズも、ほとんどが皮肉

so-called は受験勉強中は「いわゆる」という意味だと覚えましたが、このフレーズがつくものも、ほとんどの場合皮肉になります。so-called がつくと「ダメな～」という意味ではないかと疑ってみるといいでしょう。

He's a so-called accountant.

あいつがまともな会計士だとでも言うのか？

*名目は会計士でも、まったく役立たずの会計士のことをso-called accountant呼んでいるのです。

I talked to a so-called doctor about it.

その件でぼくはあの藪医者と話をしたんだ

I don't want to talk to that so-called lawyer.

俺はあの弁護士まがいの野郎と話しなんてしたくないんだ

Why are you going to that so-called school?

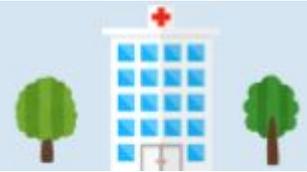
何で君はあのくず学校とやらへ行こうとしてるんだ

This is a so-called free ticket.

これは無料チケットでもなんでもないじゃないか

He's a so-called friend.

あいつなんて友達でもなんでもないよ



◆ふつうの意味と皮肉な意味、二面性を持つ表現

また、最初に取りあげたThat's great.のようにまともな意味と皮肉な意味の両方を兼ね備えている表現もあります。以下がその例ですが、場合によって判断しなければ表現ですから注意が必要です。

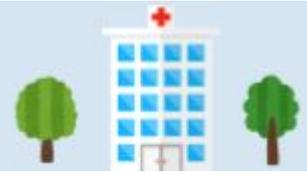
Give me a break.	かんべんしてよ いい加減にしろ！
Are you happy now?	これでいいかい？ これで気がすんだかい？
I beg your pardon.	もう一度言ってください 何が言いたいんだよ、お前！
What do you know?	何か知ってますか？ お前が何をわかってるって言うんだ？
What do you expect?	何を期待しているの？ 当然じゃないか、そんなこと
Be my guest.	どうぞ自由に 勝手にしろ！



◆ほぼ100%皮肉になるフレーズ

また、ほぼ100%皮肉にしか使われないフレーズもたくさんあります。最初は皮肉の意味で使われたものではなかったのですが、現在では、以下の表現群はすべて、皮肉な意味でしか使われることはありません。

Have it your way.	好きにしたら
What's your problem?	うるさいなあ、何の用なんだ？ *直訳は「何がお前の問題なんだ」。イライラしている人や、怒っている人などに対して「うっとうしさ」を表すときに使います。
You poor little boy/girl.	かわいそうだねえ、お前
Very funny.	面白くもない
Do you mind?	遠慮してもらえないかなあ * Do you mind sitting here? (こちらに座ってもよろしいですか?) のように、後ろにさらにフレーズを伴うときは、皮肉な意味になりません。
Isn't that special?	それはすばらしいわね～？ *ほとんど皮肉っぽくしか使いません。



◆明らかな皮肉

以下のフレーズはすべて明らかな皮肉ですが、日本人には文字面からなかなかそうとは判断できないものもありますから、注意が必要です。

Thanks for nothing.	大きなお世話だよ * ありがたくないことへの皮肉。
Yeah, I'm sorry, too.	そのとおりだ。残念なのはこっちのほうだ
Yeah, I'm sorry, too.	そのとおりだ。残念なのはこっちのほうだ * だれかが I'm sorry. (すみません、遺憾です) と言ったときに切り返す返事。
Excuse you.	すみませんって言えよ * 相手が謝罪すべきなのに、Excuse me. (すみません) と言わないとき。
You never learn, do you?	お前ってホント、懲りない奴だよ
That's just like you.	またかよ。お前らしいよ * いつものように、相手がその人らしいバカをやったとき、言ったときなどに軽蔑的に使います。
Is that supposed to be funny?	ここは笑う場面なのかい？ * つまらないジョークなどを聞いたときに使います。
Please get some professional help.	プロフェッショナルの手助けがいるんじゃないの？ * 「精神科の医者に診てもらったほうがいい」という意味で使われるフレーズ。



I'll buy you a beer if you'll drink it somewhere else.	ビールおごるから、よそで飲んでくれない？
What are you going to be IF you grow up?	万一君が成長したら、何になりたい？ *いつまで経っても成長しない人物への当てこすりです。
Did someone run over your face?	君の顔だれかが自動車でひいたのかい？ *ひどい顔の人への皮肉。

いかがですか？ ネイティブの言葉の裏にはさまざまな意味が隠されています。コミュニケーションでは、臨機応変に、相手の言葉を判断する必要があることがわかりただけたでしょうか？

もちろんここで紹介した表現を覚えておけば、幾分なりともネイティブとの会話が楽になるのは言うまでもありません。彼らの言葉の裏にある皮肉を見破ることも、上手な英語の話し手になる大事な一歩なのです。

◆皮肉よりもひどい、ケンカのフレーズ

さて、ここまでは日本人にはわかりにくいネイティブの皮肉まじりの話法について取りあげてきましたが、まだまだ序の口です。皮肉ならばまだましなのですが、もっとひどい誤解を受けたり、与えたりしてしまう可能性のあるケンカ言葉にも、文字面だけではなかなか判断のつかないものがたくさんあります。

次の英語表現をみなさんはどんな意味だと思えますか？

1. I'll teach you.
2. Just you try.
3. I don't understand you



これらを文字どおりに訳すとすると、

1. 私があなたに教えてあげます。
2. どうぞ試してみて。
3. あなたのことが理解できません。

のようになるでしょう。しかし実はこれらのフレーズ、明らかなケンカ言葉で、実際には次のような意味で用いられます。

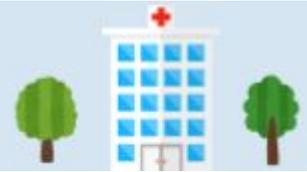
1. I'll teach you. (やってやるじゃないか！)
2. Just you try. (やるもんならやってみろ！)
3. I don't understand you.
(お前、訳わかんないよ、おかしいよ！)

日本人には一見、何の変哲もない表現に見えても、実際にはケンカ言葉であるフレーズは、これ以外にも意外にたくさんあります。みなさんが危うい目に遭遇しないためにも以下に取りあげるフレーズだけは、とりあえず覚えておくことをお勧めします。

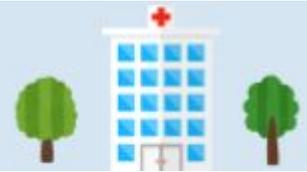
以下のフレーズはすべて明らかな皮肉ですが、日本人には文字面からなかなかそうとは判断できないものもありますから、注意が必要です。

#のついたフレーズが、日本人には即座に意味のわかりにくい要注意フレーズです。

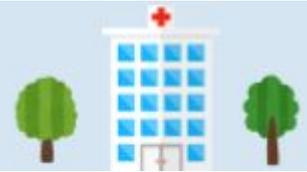
Bug off!	(うるさい！) * bug は「虫」。周りをブンブン飛び回る虫を追い払うニュアンスのひとつ。
Butt out!	(口出しするな) * 話に聞き耳を立てたり、割り込んできている人物に対する警告のひとつです。 butt のもとの意味は「尻」。



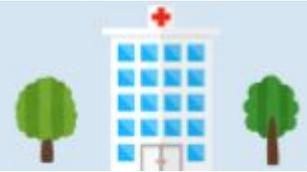
Buzz off!	(うるさい！) * buzz はもともと「ブンブン、がやがや、ざわざわうるさい」という意味。
Can it!	(黙れ！) * can はもともと「缶詰にする」という意味の動詞。
Cut it out!	(やめろ！) * ものを切るのではなく、相手の話などを遮る言葉です。Come off it! (やめろ！、いい加減にしろ！) もほぼ同じ。
Cut the crap!	(ウソをつくな！) * 「クソを切れ」が直訳です。このフレーズを聞いて正直に大便を切り刻む情景を想像してはいけません。
Don't touch me!	(手をどけろ！、触るな！)
Drop dead!	(くたばれ！) * 「落っこちて死ね」が直訳。
Fuck you.	(死ね！) * fuckは「性合する」という意味の禁忌表現。しかしネイティブは、ケンカするときその意味を思い浮かべているわけではありませぬので、念のため。
Get a life!	(いい加減にしろ！) * 「人生をつかめ」ではありません。「元気を出しなよ」という意味で使うこともあります。
Get lost!	(消え失せろ！) * 「道に迷え」ではありません。
Go fuck yourself.	(失せろ！) * fuck oneself は「自慰に耽る」の意ですが、ネイティブはそんなことを考えずに、ケンカのフレーズとして口にします。



Go to hell!	(地獄に堕ちろ！)
Hands off!	(触るな！)
I hate you.	(むかつく！、大嫌いだ！)
I'll kill you.	(殺てもうたる！) * I'm going to kill you. もほぼ同じ意味になります。
Knock it off!	(やめろ！、黙れ) * 「それをノックしてはずせ」などという意味ではないのです。
Let's go outside.	(表へ出ろ！) * 「外へ行きましょう」と言っているのではないのです。
No way!	(絶対にダメ！) * 「道がない」という意味ではありません。
Screw you!	(死ね！) * 禁忌表現の Fuck you. をトーンダウンして別の言葉で言い換えたもの。
Shut your mouth!	(黙れ！) * Shut up! も同じく「黙れ」の意。
Smart ass.	(生意気言うな！) * smart assはもともと「秀才」の意。Smart aleck! (生意気だぞ！) と言ってもほぼ同じです。
Stop bugging me!	(うるさいな！) * bug はすでに Bug off. のところで出てきましたが「うるさくつきまとして悩ませる」という意味。
Stop it!	(うるさい！、やめろ！)
Sue me!	(やれるもんならやってみろ！) * sue は「告訴する、訴える」という意味の動詞です。



Take a hike!	(失せろ！) * 素直に読めば「ハイキングに行け」だと思いたすが、実際は「消え失せろ！」という意味になります。
Up yours!	* これも、既出の Screw you. と同様、Fuck you. をトーンダウンした言葉です。
You asshole!	(この、どアホ！) * asshole はもともと「ケツの穴」という意味ですが、これも相手を嘲る言葉になります。
You bastard.	(このバカ野郎！) * bastard のもともとの意味は「私生児」ですが、その意味で使われているわけではありません。
You chicken.	(この臆病者！) * 「お前はニワトリだ」という意味ではありません。
You liar.	(この、うそつき野郎！)
You prick.	(まぬけ！)
You wimp.	(弱虫野郎！)
You're boring.	(つまんね一奴！)
You're crazy.	(お前、頭おかしいよ)
You're dead.	(殺すぞ) * 「お前は死んでいる」という意味ではありません。
You're fucked up.	(アホか、お前) * fucked up は「変な、異常な」という意味の形容詞。
You're sick.	(お前、病気だよ) * 本当の「病気」の意味ではなく、相手がいかれて



	いることに言及するひとことです。
You're so stupid.	(このバカ)
* You're wrong.	(お前が悪いんだよ) * 「君は間違っている」という意味ではありません。

もちろん、間違っって使わないためにもこれらのフレーズを覚えておいてほしいのですが、ときにはこれらのフレーズを使ってネイティブとケンカをしたってかまいません。何を言われても反論したり、強気になったりできない人間というのもまた、ネイティブにとっては不思議なものなのです。しかし、ここで取りあげたフレーズはいずれも口にするとかなり危険なものばかりですから、使うときにはそれなりの決意を持って、くれぐれも自分のカラダに危害が及んだりほしないように注意してください。

<教訓: 英語は文字どおりの意味にならないことが多い。状況によって理解しろ>





(4)米国英語だけ／英国英語だけを勉強 したい人

アメリカ人と話をしていた日本人男性が、「緊急の用件があったので、深夜に彼女を叩き起こしたんだよ」と英語で言おうとして、**I'll knock her up.**（彼女を深夜に叩き起こした）というセンテンスを使ったとしましょう。

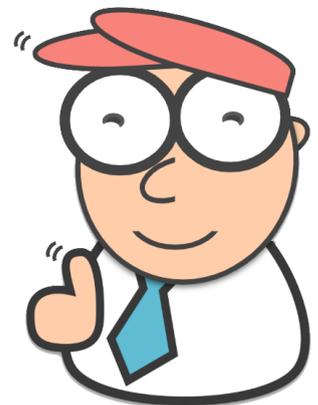
途端にアメリカ人の表情はこわばり、顔は青ざめ、軽蔑の眼差しがあなたに突き刺さるかもしれません。

実は **knock someone up** というフレーズ、ブリティッシュイングリッシュでは、「夜中に眠っているだれかを叩き起こす」という意味なのですが、アメリカ英語ではまったくそんな意味にはならないのです。

英国留学をしていたこの日本人男性は英語にはだいぶ自信があったので、このアメリカ人の眼差しが何を意味するのかは即座に理解できなかったという話ですが、のちに **knock someone up** というフレーズが、アメリカ英語では「だれかを妊娠させる」という意味になるのだ知ったとき、彼は自分の英語力の偏りに愕然としたのだそうです。

この例でわかるように、英語というものはさまざまな国で話されている言語です。もちろん基本的なコミュニケーションのほとんどは、特定の国の英語を学ぶだけでも身につけることはできるでしょう。しかし、英国英語だけしか知らなかったために起こったようなミスアンダースタンディングを犯したくないのであれば、特定の国の英語にこだわらずに英語の学習を進めるべきです。

特にその代表とも言える、ブリティッシュイングリッシュとアメリカンイングリッシュには意外に大きな意味の違いが随所に見られます。この両国の英語をできるだけ公平に、差別なく学習していくように心がけるのに越したことはないのです。





このユニットでは、英国英語とアメリカ英語の違いをクイズ形式で紹介していきます。人それぞれに特徴があるから、人間はみな面白いものですが、英語だって同じです。

さて、以下のクイズ、みなさんはどのくらい正解できるでしょうか？さあ、始めましょう。



QUIZ 1

どちらの単語が英国英語？アメリカ英語？

●缶詰

- A. Could you get me a can of tomatoes?
- B. Could you get me a tin of tomatoes?

正解 A

●クッキー／ビスケット

- A. I usually have a biscuit with my tea.
- B. I usually have a cookie with my tea.

正解 B

●オムツ

- A. I bought some nappies for my baby.
- B. I bought some diapers for my baby.

正解 B



●懐中電灯

- A. There's a flashlight on the table.
- B. There's a torch on the table.

正解 A

●ガソリン

- A. The car's running out of gas.
- B. The car's running out of petrol.

正解 A

●高速道路

- A. The freeway is the fastest way to get there.
- B. The motorway is the fastest way to get there.

正解 A

●ボンネット

- A. The mechanic opened the bonnet.
- B. The mechanic opened the hood.

正解 B



●交差点

- A. He didn't stop at the crossroads.
B. He didn't stop at the intersection.

正解 B

●昇給

- A. I didn't get a raise this year.
B. I didn't get a rise this year.

正解 A

●トラック

- A. The truck ran into a tree.
B. The lorry ran into a tree.

正解 A

●弁護士

- A. I talked to a solicitor about the problem.
B. I talked to a lawyer about the problem.

正解 B



●電話の話し中

- A. I called Jim, but the line was engaged.
- B. I called Jim, but the line was busy.

正解 B

●ごみ箱

- A. I threw the newspaper in the dustbin.
- B. I threw the newspaper in the trashcan.

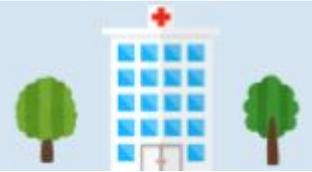
正解 B

クイズの正解率はいかがでしたか？意外に有名な単語でも、アメリカ英語と英国英語では大きく違っていることに少々驚かれたのではないのでしょうか。

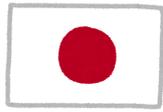
英国英語とアメリカ英語にはまだまだたくさんの違いがあります。まったく違う単語になるものや、綴り字の一部が違うもの、単数形と複数形による数の示し方の違いなど、さまざまな違いが存在します。今度はクイズにはしませんが、両国語の英単語の違いの代表的なものを以下のリストで把握しておくといいでしょう。

もちろんすべてを覚える必要はないでしょうが、それぞれの特徴をこのリストで理解しておきましょう。





◆米英両国語の綴り字の違い



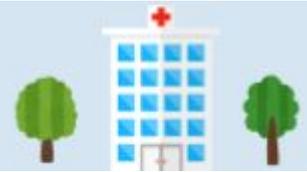
日本語	アメリカ英語	英国英語
飛行機	Airplane	Aeroplane
アパート	Apartment	Flat
前菜	Appetizer Entree	Starter
考古学	Archeology*	Archaeology
ベビーシッター	Babysitter	Minder
ベークドポテト	Baked Potato	Jacket Potato
バンドエイド	Band-Aid	Elastoplast
出納係	Bank Teller	Cashier
トイレ	Bathroom Loo	The Toilet
10億	Billion	Trillion *英国では10億のことを billion ではなく、trillion ということがあります。現代では英国でも billion と呼ぶ場合が増えてきました。
テラス	Bleachers	Terrace
歯列矯正具	Braces (for teeth)	Brace
お菓子	Candy	Sweets



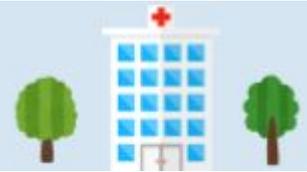
カタログ	Catalog*	Catalogue
小切手	Check*	Cheque
チェッカー *ゲームの「チェッカー」	Checkers	Draughts
チップス *ポテトチップスなどのカリカリした食べ物。	Chips	Crisps
タバコ	Cigarette	Fag
クローゼット	Closet	(bedroom) Wardrobe
不器用な	Clumsy	Cackhanded
コレクトコール	Collect Call	Reverse Charge Call
色	Color*	Colour
コマーシャル	Commercial	Advertisement
綿菓子	Cotton Candy	Candy Floss
クラッカー	Cracker	Savoury biscuit
ベビーベッド	Crib	Cot
横断歩道	Cross Walk	Zebra Crossing, Pedestrian Crossing
横断監視員 *通学路で子ども達の横断を見守る人。最近では日本でも補導員などと呼んで、お母さん達が交代でこの役目をして	Crossing Gaurd	Lollipop Man



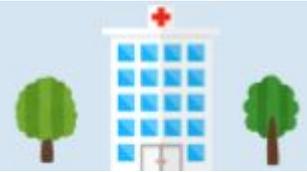
います。		
カップケーキ	Cupcake	Fairy Cake
デザート	Dessert	Afters, Pudding
回り道、迂回路	Detour	Diversion
お札	Dollar Bill	Note
ドラッグストア	Drugstore	Chemist
二戸 [二世帯] 建て住宅	Duplex Semi-Detached	House
ナス	Eggplant	Aubergine
エレベーター	Elevator	Lift
緊急治療室	Emergency Room	Casualty
消しゴム	Eraser	Rubber
高価な	Expensive	Dear
蛇口	Faucet	Tap
好みの	Favorite*	Favourite
消防署 [団]	Fire Department	Fire Brigade
ゴミ収集人	Garbage Man	Dustman
ガーターベルト	Garter Belt	Suspenders
接着剤	Glue	Gum
灰色の	Gray	Grey
ハンバーガーのパン	Hamburger Bun	Bap
名誉	Honor	Honour
エッチな	Horny	Randy



ジャム	Jelly	Jam
宝石	Jewelry	Jewellery
濃厚なキス	Kiss	(passionate) Snog
テントウムシ	Ladybug	Ladybird
リード * 犬の首輪につける 「リード」	Leash	(Dog) Lead
ナンバープレート	License Plate	Number Plate
行列	Line	Queue
酒屋	Liquor store	Off Licens, Offy
居間	Living Room	Lounge
郵便	Mail	Post
郵便配達人	Mail Carrier	Postman, Posty
郵便受け	Mailbox	Postbox
作戦行動、演習	Maneuver	Manoeuvre
算数	Math	Maths
閉経	Menopause	The Maenopause
映画	Movie	Film
高速道路のランプ * 高速道路に侵入 したり退出したりす るための道路。	On/Off Ramp	Slip Road
オーブンレンジ	Oven	Cooker
オーバーオール * つなぎの作業服。	Overalls	Dungarees



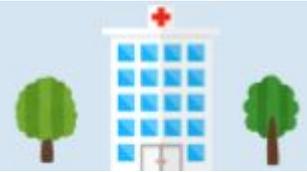
高架	Overpass	Flyover
おしゃぶり	Pacifier	Dummy
パジャマ	Pajamas*	Pyjamas
ズボン	Pants	Trousers
キッチンペーパー	Paper Towel	Kitchen towel, Kitchen Paper
パレード	Parade	Carnival
駐車場	Parking Lot	Car Park
薬剤師	Pharmacist	Chemist
バスケット *ピクニック用のバスケット [カゴ]	Picnic Basket	Picnic Hamper
パイ生地	Pie Crust	Pastry Base
ラップ *サランラップのような包装用フィルム	Plastic Wrap	Clingfilm
私立学校 *英国の「パブリックスクール」は公立ではなく、寄宿制の私立中等学校のこと。	Private school	Public school
公立学校	Public School	State school
レインコート	Raincoat	Mackintosh
不動産業者	Realtor	Estate Agent



レンタカー	rental car	hire car
ガウン	Robe Dressing	Gown
砂場	Sand Box	Sand Pit
サンドイッチ	Sandwich	Butty, Sarny
サンタクロース	Santa Clause	Father Christmas
歩道	Sidewalk	Pavement
運動靴、スニーカー	Sneakers	Trainers, Plimsolls, Pumps
サッカー	Soccer	Football
乳母車	Stroller	Pram, Pushchair
発泡スチロール	Styrofoam	Polystyrene
サスペンダー	Suspenders	Braces
セーター	Sweater	Pullover, Jumper
テイクアウト [持ち帰り]	Take-Out	Take-Away
トークショー	Talk Show	Chat Show
画びょう	Thumb Tack	Drawing Pin
タイヤ	Tire	Tyre*
楊枝	Toothpick	Cocktail Stick
団地	Track Housing	Housing Estate
交通渋滞	Traffic Jam	Tailback
トレーラー	Trailer	Caravan
ゴミ	Trash	Rubbish



ゴミ箱	Trash Can	Bin, Dustbin (the one outside)
トランク	Trunk (car)	Boot
タキシード	Tuxedo	Dinner Jacket
傘	Umbrella	Brolly
アンダーシャツ下着 Undershirt Vest	Underwear	Pants, knickers
休暇	Vacation	Holiday
チョッキ、ベスト	Vest	Waistcoat
手ぬぐい、布巾	Washcloth	Flannel
フロントガラス	Windshield	Windscreen
庭 Garden	Yard	Garden
ゼット *アメリカでは 「ズィー」、英国で は「ゼッド」	Zee (letter)	Zed
郵便番号	Zip Code	Post Code
ズッキーニ	Zucchini	Courgette
アルミニウム	aluminum	aluminium
アナログ	analog	analogue
麻酔	anesthesia	anaesthesia
規則	bylaw	bye law
カタログ	catalog	catalogue
中心	center	centre
色	color	colour



縁石	curb	kerb
防御、防衛	defense	defence
対話	dialog	dialogue
原稿	draft	draught
婦人科	gynecology	gynaecology
トラック運転手	hauler	haulier
ユーモア	humor	humour
宝石	jewelry	jewellery
免許 British usage is license for the verb and licence for the noun	license	licence
メートル	meter	metre
オムレツ	omelet	omelette
練習する * 名詞の場合は米 語・英語ともに practice です。	practice	practise
テレビ番組 * コンピュータプロ グラムは英国でも program と表現しま す。	program	programme
専門	specialty	speciality
硫黄	sulfur	
万力	vise	vice tool



このユニットのクイズをきっかけにして、今後はアメリカ英語と英国英語の違いを楽しみながら学習を進めていくことをお勧めします。そうすることで、みなさんの英語理解、異文化理解の力は大きく飛躍していくことでしょう。また、アメリカと英国の英語だけにこだわることはありません。いろいろな国の英語に触れ、その国々の文化に貪欲に親しんでいきましょう。

<教訓:アメリカ英語と英国英語には多くの隔りがある。
いろいろな国の英語を分け隔てなく身につけるのが英語上達への近道だ>





(5) 単語やセンテンスの意味が、ひとつしかないと思っている人

◆ひとつの英単語にも、いろいろな意味がある

「少ない単語をいろいろなセンテンスに応用するのが英会話上達の近道だ」ということはすでに~~の章で述べておきましたが、もうひとつこれに似た英会話上達術があることをご存知でしょうか？

それは、ひとつの英単語をいろいろと応用して使い回す方法です。といっても、今度はセンテンスでの応用ではなく、ひとつの単語の別の意味を知ることがカギになります。

みなさん、学校での英語の時間には、たいてい、ある単語の意味を覚えるとき、ひとつの訳語しか気にしていなかったのではないかと思います。実際にはネイティブはひとつの単語をいろいろな意味で、日常的に使い回しているのです。

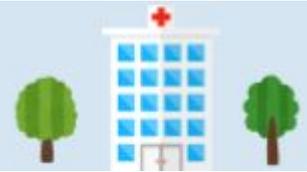
例として次の文を見てみてください。

She is hysterical.



「彼女はヒステリックに怒っている」という意味だと思いましたか？ たいていのひとはこの意味を考えるとします。それとも、もうひとつの別の意味を思い浮かべたでしょうか？ だとしたら、あなたは英単語をととても効率よく利用している人、ということになるでしょう。

実は hysterical には「ヒステリックな」という意味と、「笑いが止まらないほど面白い」というふたつの意味があって、ネイティブはこの単語を両方の意味でよく用いるのです。英語はいろいろな言語と影響試合ながら発展してきましたから、ひとつの単語に思いもよらぬ意味が隠れていることもとても多く、その思いもよらぬ意味もネイティブによって頻繁に使われている場合もとても多いのです。

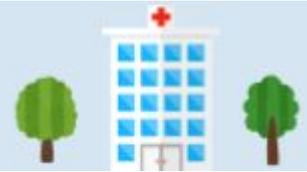


すでに知っている単語の別の意味を覚えることは、とても簡単で効率のよいことです。みなさん、いままでとてももったいない学習をしてこなかったでしょうか。すでに知っている1000の単語の別の意味を覚えれば、即座にみなさんのボキャブラリーは倍の2000にもふくれあがるのです。

これから紹介する英単語の思いもよらぬ別の意味を、みなさんはどのくらい知っているでしょうか？ みなさんが知らないからと言って、ネイティブにも馴染みのないものは、ここでは取りあげていませんので、覚えてそんな英単語は以下には掲載していません。今すぐ、顔見知りの英単語の別の一面に知り合って仲良くおつき合いを始めましょう。

◆お馴染みの英単語の意外な意味

英単語	お馴染みの意味／もうひとつの意味	例文
cross	渡る／不機嫌な (形容詞)	Jack is always cross in the morning. (ジャックは朝機嫌が悪い)
doctor	医者／ごまかす、 偽造する (動詞)	She got arrested for doctoring the report. (彼女は報告書を偽造したかどで逮捕された)
drive	運転する／やる気 (名詞)	Athletes have to have a lot of drive. (運動選手はやる気に満ちていないとダメだ)
dry	乾燥した／退屈な	That was a dry movie. (あれは退屈な映画だったよ)
floor	床／驚かされる (動詞)	I was floored by the news. (そのニュースにはビックリした)

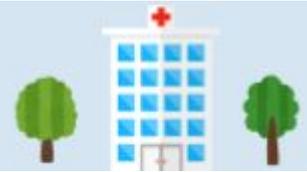


green	ミドリ色／新人の、新米の（形容詞）	George started working here last week, so he's still green. （ジョージは先週から働きだしたばかりだから、まだ新米だ）
mean	意味する／意地の悪い（形容詞）	My boss is mean to me. （ボスは私に意地が悪い）
loud	（声などの）大きな／派手な	This necktie is too loud for a business meeting. （このネクタイはビジネスミーティングにしていくには派手すぎる）
date	デート／つき合う（動詞）	I dated John for two years. （私はジョンと2年間つき合った）
trip	旅行する／つまづく（動詞）	I tripped and sprained my ankle. （転んで足首を捻挫した）

ここまでで紹介した単語はいずれも同じ形で別の意味をもつものでしたね。次に紹介するのは、わずかに形が変わって、思いがけない意味になる言葉ばかりです。

◆少し形が変わると違う意味になる英単語

英語	意味	変形語	意味	
touch	触る	touching	感動的な	She gave a touching speech at my wedding. （彼女は私の結婚式で感動的なスピーチをした）
bush	草むら	bushed	疲れた	Let's set down and rest. I'm bushed. （腰を下ろして休もうよ。ぼくは疲れたよ）
fish	魚	fishy	怪しい	Something's fishy about this ticket.



				(このチケットはどこか怪しい)
need	必要	needy	貧しい	The needy have difficulty getting a good education. (貧しい人たちは)
push	押す	pushy	強引な	Don't be so pushy. You're not my boss. (そんなに強引なこと言うなよ。君はぼくの上司じゃないんだから)
shade	日陰	shady	うさん臭い	I don't trust him. He's shady. (彼は信用できないね。胡散臭いよ)
touch	触る	touchy	短気な	Don't be so touchy! I didn't do anything to you. (そんなに短気を起こすなよ。何もしてないじゃないか)
expect	期待する	expecting	出産予定の、妊娠した	My wife is expecting in August. (妻は8月に出産予定です)
craft	技術、技巧	crafty	ずるい	I bought this watch from a crafty salesman. (この時計は狡猾なセールスマンに買わされたんだ)
rest	休憩を取る	restless	落ち着かない	I felt restless before the interview. (面接の前には、落ち着かない気分だった)
nose	鼻	nosy	詮索好き	My boss is so nosy. He always read my e-mail. (うちの上司は詮索好きでね。いつもぼくのメールを読んでいるのさ)



ここまではお馴染みの単語の意外な意味についてみてきましたが、単語だけではなく句（フレーズ）にも同様のことが言えます。まったく同じ形のフレーズに見えても二つのまったく異なる意味をもっている場合があります。英語って、本当に面白いですね。少し例にとってみていきましょう。これまで知らなかった、意外な言い回しの意外な意味を発見してください。

I dropped her.

1. 彼女を振った。
2. 彼女を降ろした。

* それまでつき合っていたある女性と縁を切ったという意味と、ある女性を自動車などから降ろしたという意味のふたとおりに解釈できるフレーズです。このふたつの意味を知っていれば会話の前後から判断できますが、知らなければかなり解釈に苦戦する表現でしょう。

That's the way it goes.

1. 当然だ。
2. 仕方がない。

* 直訳は「それこそ、それが進む道だ」ですが、ここから「当然のことだ」という意味と、「そうなるしかなかったんだ、仕方がない」という意味のふたとおりが生まれてきたものです。

Say nothing more.

1. もう心配しなくていい。
2. あなたはだまっています。

* Say nothing more.は「もう何も言わなくていいよ」「もう心配しなくていいよ」という慰めのニュアンスになるし、「黙っている」と相手の言葉を遮る強い口調の言い回しにもなるのです。



I have a bug.

1. カゼをひいている。
2. 虫をもっている。

* 2. のほうは、実際に昆虫を持っているという意味です。

I got burned.

1. ヤケドした。
2. だまされされた。

* get burned には「火傷を負う」という意味と、「だまされる」という意味のふた通りがあります。

Come again./Come again?

1. また来てね。
2. 何だって？（もう一度言って）

* 肯定文では、「また来てくださいね」と、訪問客を送り出すときの決まり文句になります。また、疑問文になると、「何て言ったの？」「もう一度言って」と相手の言葉を繰り返してもらうときの決まり文句になるフレーズです。

Get out of here.

1. 出ていけ。
2. 冗談でしょう。

* 「ここから出ていけ」という1の意味が元々の意味ですが、そこ



から転じて「そりゃ冗談だろう、やめてくれよ」と、相手の話をまともに受け取らないときのひとこととしても使われます。

Break a leg.

1. がんばって。
2. 足を折りなさい。

*文字どおりに「足を折れ」という意味でも使えますが、もうひとつ別に、「頑張る」という声援にも使えます。Break a leg. は舞台など人前で演じたり話をしたりする人への激励のひとことなのです。

Give me a break.

1. 休憩をくれ。
2. かんべんしてくれ。

*breakには「休憩」という意味があります。1. はそのままの「休憩」という意味で使われていますね。2. のほうは相手の悪ふざけやウソ、冗談などに対して、「ここら辺で勘弁してくれよ」と訴えるフレーズです。

I have a flat.

1. アパートがある。
2. パンクした

*flatには「アパート、共同住宅」という意味があります。have a flatで「アパートを持っている」という意味になるのです。ただし、このフレーズ2番目のようにhave a flatのほうは「自動車のタイヤがパンクした」という意味でも使われます。こちらはflat tire（パンクしたタイヤ）が短くなったものなのです。



I beg your pardon.

1. もう一度お願いします。
2. 何だって？

*相手の話が聞き取れなかったときに「もう一度お願いします」と言うときに使うのはご存知ですね。そこから転じて「何だって、もう一度言ってみろよ!」「何ですって?」と、相手のネガティブな言葉に対して厳しくチェックを入れるときにも使われるのがこのフレーズなのです。

Don't give me that.

1. それ、私に渡さないで。
2. 嘘つかないでよ。

*文字どおり、「持っているものを自分に渡してくれるな」、という意味と、「私にそんなウソを言ってくれるな」というふた通りの意味で用いられるフレーズです。

That does it.

1. これで終わり。
2. もうがまんできない。

*何かの作業などの終わりに「これで終わりだよ」と言うときにも使えるし、「そのひとことで、もう切れた!」と自分の我慢の限界を相手に伝えるときにも使えます。



Talk about busy.

1. 忙しいさについて話して。
2. 忙しさなら任せてよ。

* 2. は、だれかが忙しいとぼやいているとき、「いや、忙しさに関してはおくの右に出るものはいないよ」と張り合うときのひとことです。

Want to bet?

1. 賭けるかい？
2. 本当だな？

* betは「賭け」という意味の語ですから、実際に「賭けるかい？」と言うときに使えるのと同時に、相手の言葉を疑うときに「本当だな？」「本当か？」「ウソだよ」「ウソだろう」といった意味でも使えるひとことです。

You heard me?

1. 聞こえた？
2. ごまかすんじゃないよ。

* 文字どおり「私の話聞こえた？」という意味で使う用法もありますが、自分の話を無視したり、ごまかしたりしようとしている相手に釘を差すときのひとこととしても使えます。

Look out for him.

1. あいつには注意しろ。
2. 彼の面倒をよろしく。



* look out for someone には「～の面倒を見る」という親切な意味と、「～に対する注意を怠らない、～を見張る」という意味の両方があります。

I'll take care of him.

1. 彼の面倒は私がを見てあげる。
2. 彼のことは私がきっちり片を付けてきてあげる。

* take care fo him にはお馴染みの「面倒を見る」という意味のほかにも、「だれかとのトラブルなどを片付ける」という意味があるので

You have nerve.

1. 君は勇気がある。
2. 君は図々しい奴だね。

* have nerve には、1. のように「勇気がある」というポジティブな意味と、2. のような「図々しい」という意味とがあります。

You said it.

1. そのとり。
2. あなたがそれをいったのよ。

* 直訳すると2. の「あなたがそれを言ったのだ」という意味になりますが、そのほかにも、相手の言葉への賛意を表すときの「そのとおり!」「君の言ったとおりだ!」という意味での使い方があります。



He has already retired.

1. 彼はもう引退した。
2. 彼はもう寝た。

*retire にはふたつの意味があります。ひとつは「引退する」もうひとつは「就寝する」という意味ですね。これも聞いている側は、状況によって判断するしかありません。

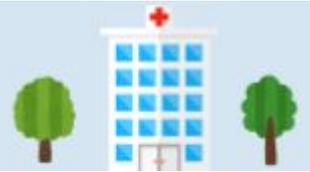


いかがでしたか、英単語、フレーズともに幾重もの意味をもっていること、またそれを覚えているのといかないのでは、英語の理解力がとても大きく異なってしまうだろうということは容易に類推できますね。

もちろん、すべてを覚えている必要はないでしょうが、これらのフレーズにひととおりの目を通しておき、ネイティブが話しているときに登場してきたら、ピンとくることができるようにしておくことはとても大切です。

ぜひこの章のフレーズを理解して、日常英会話の糧としていただきたいと思います。

<教訓:ひとつの単語にはいろいろなニュアンスがある。ニュアンスを大事にしないとすなわち誤解が生まれてくる>



(6)英語を恐れてしまう人

職場などで否応なしに英語を話さなければならない立場に追い込まれ、英語恐怖症や英語コンプレックスに陥っている人も少なくないようです。彼らは英語を難しいもの、できれば避けてとおりたいもの、とはじめから決めてかかり、自らコミュニケーションを放棄してしまっているのです。

もっと気楽に考えてみましょう。きちんとした英語が話せなければ言いたいことが伝わらないと思っているなら、それは大きな間違いです。英語は言葉ですから、どのように操るかはあなた次第。人に個性があるように、英語のスタイルも話し手によって変わるのは当然のことです。自分のスタイルで自信を持って相手に接してみましょう。

ボキャブラリー不足や文法の知識不足は、身振り手振りや、積極的に声を発することでかなりカバーできます。また、相手もこちらの言うことを理解したくて聞いているわけですから、仮に意味不明な箇所があったとしても、こちらのレベルに合わせた易しい英語で聞き返してくれるはずです。このように、英語力不足をカバーしながらコミュニケーションを成立させる方法はいくらかでもあります。

考えてみれば英語というのは結構いいかげんな言葉です。一つの単語にいくつも意味があり、同じ意味の単語が山ほどあります。例えばrunには50以上もの意味があるのです。もう英語を恐れるのはやめにしましょう。恐れるほどのものではないのですから。

英語は自己流でもかまわない、とにかく片言でもいいから勇気を出して、まずは自分流の英会話を始めてみましょう。こまかなことはその後で十分間に合うのです。

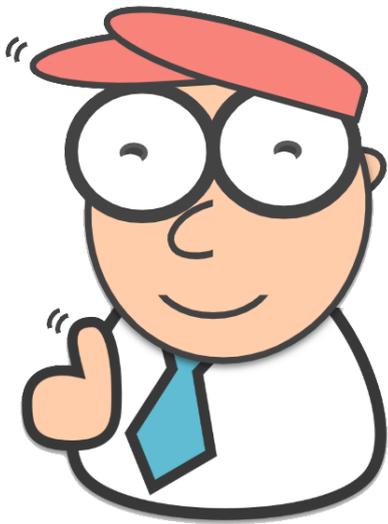




(7)英語学習を楽しみにしない人

英語のテキストを読んだり、必死に単語や熟語をおぼえるのも英語を身につけるための一つの手なのは確かですが、それでは辛いばかりでちっとも楽しくありません。英語習得への一番の近道は、心から楽しみながら学ぶことです。楽しみながら学べる方法を自分なりに考えて、これは！と思える方法が見つかるまでいろいろと試してみましよう。

趣味と英語を組み合わせるのも良い考えです。例えば、釣りが好きな人なら、一度は英語の釣り雑誌を買ってみることをおすすめします。釣りの専門用語は万国共通のものが多いため、釣り好きな人なら比較的楽に読めるはずですよ。通信販売を通じて道具を海外から購入するのにも、ある程度の英語力は必要ですね。そんな楽しみを実現するためなら、英語の勉強も少しは楽しくなるはずですよ。



野球が好きなら大リーグ中継を二か国語放送で見ましよう。野球に限らず、今では衛星放送やケーブルテレビでいろいろな英語番組が二か国語放送で見られます。お気に入りの番組を見つめましよう。

リスニングに自信がなくても、テレビなら映像に助けられる部分も多いのでそれほど苦になりません。内容をしっかりと理解したいのであれば、放送を日本語で見て、別のテレビを使うなどして録画を英語でしておくことをおすすめします。好きな番組なら最高の教材になります。

英語を「辛いだけの勉強」ととらえるのはもう止めにしましよう。英語を自由に操ってネイティブと会話する自分の姿を思い描きながら、ワクワクしながら、楽しみながら英語を学んでください。それが英語上達の秘訣なのです。



(8)あいさつのできない人

あいさつはコミュニケーションには欠かせないものです。あいさつひとつで人間関係が良くも悪くもなるのは、洋の東西を問いません。

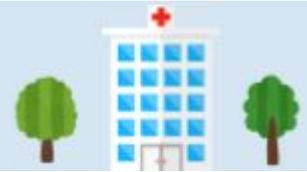
英語で話すときでも、状況に応じて、きちんとしたあいさつができるようにしておきたいものです。あいさつもろくにできない人が、英語で外国人とのコミュニケーションを取れるはずはないのです。

ここでは、初対面の人にするあいさつ、調子をたずねるあいさつ、そして別れ際のあいさつをまとめてみましたので、以下のようなフレーズを使って気さくにネイティブに声をかけるように心がけるようにしましょう。楽しい会話は、感じのいいあいさつから生まれてくるのです。



◆初対面の人にするあいさつ

I've heard all about you.	お噂はかねがね伺っております
It's nice to meet you.	お会いできてうれしいです
I've been looking forward to meeting you.	お会いするのをずっと楽しみにしておりました
I feel honored to meet you.	お会いできて光栄です
I couldn't wait to meet you.	お会いするのが待ち遠しかったです



◆調子をたずねるあいさつ

How are you doing today?	ご機嫌いかがですか？
How is everything going?	調子はどうですか？
What's up?	元気？
Are you keeping busy?	お忙しいですか？
Are you feeling better?	具合はよくなりましたか？
Are you enjoying your stay in Japan?	日本での滞在を楽しんでいますか？
How was your flight?	飛行機の旅はどうでしたか？

◆別れ際にするあいさつ

Drive safely.	安全運転でお帰りください
Please come again.	また来てくださいね
You're welcome any time.	いつでもいらしてくださいね
Thank you for coming.	来てくれてどうもありがとう
I hope you can come again.	またのお越しをお待ちしています
Come back soon.	またすぐに遊びに来てくださいね
I hope we can meet again soon.	またすぐにお会いできることを楽しみにしております。



(9) 勇気のない人



「相手が自分の英語を理解してくれなかったらどうしよう」
「文法が間違っていたらどうしよう」
「きちんと発音できるかな」
「英語を話すのってなんだか恥ずかしい」

そんな不安な気持ちがあなたのそのひとことを押しとどめているのでしょ。英会話上手になりたいのなら、まずはそんな日本人的な発想を拭い去ることから始める必要があります。

きちんとした英語が話せないとしても、勇気をもって最初のひとことを口に出してしましましょう。英語が間違っていたとしても、それを聞いて笑う人などネイティブにはいないのです。それどころか、一生懸命英語を話そうとする姿は、相手に好印象を与えるはずですよ。

自信を持って堂々とコミュニケーションしてみましよう。相手もあなたの言葉を理解したくて聞いているのですから。

言葉を覚えたての子供は、自分の言うことがきちんと相手に通じるかどうかは気にしません。間違いをまったく恐れずに、どんどん言葉を発します。だから子供は上達が早いのです。上達の最大の秘訣は、間違いを気にせずに、たくさん喋ることなのです。

アメリカでは、見ず知らずの人同士が気軽にあいさつを交わし、会話を楽しみます。しかし、日本人はなかなか自分から他人に話しかけようとしないうです。



もちろん何と話しかけていいのかわからないから、話ができないのだという人もいるでしょう。しかし、話をする内容など何でもいいのです。どこかでネイティブと出会ったら、まずはひとこと声をかけてみるのが大切なのです。

バス停でバスを待っている間、エレベーターの中、ホテルのロビー、公園……、いつだって、どこだってかまわないのです。きっかけを見つけて、思い切って見知らぬネイティブに話しかけてみましょう。

話題に困るのだというのなら、天気の話など簡単な話から始めるのがいいでしょう。また、相手のなにかをほめてみるのもひとつの手です。話しかけるきっかけになりそうな表現をまとめてみましたので、参考にしてください。

◆ネイティブに話しかけるきっかけ表現

How are you today?	ごきげんいかがですか？
It's sure hot [cold] today, isn't it?	今日は本当に暑い [寒い] ですね
Nice weather, isn't it?	いい天気ですね
Is it always this hot [cold] here this time of the year?	この時期はいつもこんなに暑い [寒い] のですか？
Are you from here?	この街に住んでおられるのですか？
You have such nice children.	かわいいお子さんですね
What a cute dog!	なんてかわいいワンちゃんなんでしょう！
I really like your outfit.	その服とっても素敵
That's a nice tie.	素敵なネクタイですね



海外へ出かけても、英語を話す機会がまったくなかったと言う人がたくさんいます。しかし、ネイティブ相手に気兼ねは禁物です。もっと積極的に生の英語の触れる機会をつくりましょう。自分から気軽に話しかける積極性を持たない人の英語は、いつまでたっても上達するみこみはないのです。



(9)英語で言えないときに、あきらめてしまう人

言いたいことがあるのに、英語で何と言えればいいのか分からない。そんなとき、言うのをあきらめて黙ってしまっていないですか？
それでは、いつまでたっても知らないことは話せないということになってしまいます。

しかしよく考えてみてください。会話は一人でするものではありません。言いたいことが英語で言えないのであれば、その問題を相手と分かち合うようにすればいいのです。そうすることで、相手とのコミュニケーションを深めることもできますし、さらに自分の英語力もアップしていくのです。

英語で話せないことがあるときには、口を閉ざしてしまうのではなく、相手を会話の中に巻き込んでしまえばいいのです。それは別に恥ずかしいことでも何でもないのです。

ここでは、言いたいことが言えないときにどんなふうに言えばいいのか、しゃべり方の例を挙げて紹介しておきます。勇気をもって、次のようなフレーズで話を切りだしてみてください。きっとうまくいくはずですよ。

◆言いたいことが言えないときの切り抜けフレーズ

I want to say something, but I don't know how to say it in English.

言いたいことがあるんだけど、英語で何とどうのかわからないんだ

I'm trying to say something, but I don't know the words.

言いたいことがあるんだけど、言葉がわからないんだ

It's on the tip of my tongue.

ここまで出かかっているんですけど...



いかがですか？ このような表現で話を切り出せば、自分の英語力不足をネイティブとあなたの問題にすることができます。相手も一緒になって、あなたが言おうとしていることを何とか引っ張り出そうとしてくれるはずです。

日本人はよく、'I'm sorry for my poor English.'（英語がへたなもので申し訳ありません）と言って自分の英語力のなさを詫びます。しかし、これはとても日本的な考え方です。コミュニケーションするのはお互いの責任。したがって、日本語が話せない相手も悪いのです。自分の英語力について詫びる必要など、どこにもないのです。



(10)流行に鈍感な人

日本語では、毎年のように新しい流行り言葉が生まれています。また、「死語」などという言葉があるように、数年前までは誰もが使っていたはずなのに、時が経つにつれてまったく使われなくなる言葉も存在しています。時とともに、言葉も変化しつづけているのです。

これは英語でも同じこと。その代表例として、インターネットをはじめとする通信技術分野での言葉の変化が挙げられます。

インターネットが普及するに伴って、英語には新しい表現が次々と生まれています。

Eメールやチャットで用いられるインターネット略語もその一つ。英語のチャットやメールを利用する人の間で頻繁に用いられているこの略語は、初めて見る人には、なんのことやらさっぱりわからないことでしょう。



チャットやEメールで用いられる略語の中から、代表的なものをいくつか挙げておきますので、参考にしてください。覚えたら、友人へのメールでさっそく使ってみましょう。

◆インターネットでよく使う略語

AFAIK	As far as I know...	わたしの知る限りでは
BBS	Be back soon.	すぐ戻る
BTW	By the way...	ところで
FYI	For your information...	ご参考までに
GR8	Great.	すばらしい
IOW	In other words...	言い換えれば、すなわち



LOL	Lots of laughs.	大笑い
LUVYA	I love you.	愛してるよ
OIC	Oh, I see.	なるほど
OTOH	On the other hand...	もう一方
TTYL	Talk to you later.	またね
WBS	Write back soon.	すぐに返事します

ここで取りあげたのは、インターネットやEメールで使われる新語だけでしたが、このほかにも口語英語はどんどん生まれてきます。そしてその中のいくらかは生き残り、いくらかは仕事と化していくのです。

日本語でも同じですが、いつでも好奇心を持ち、新しい言葉を学んでいくこと、それも英会話上達のための、ひとつの秘訣と言えるでしょう。

日頃から好奇心を旺盛に持ち、流行に敏感な生き方をしていることが、英語の上達にもとても大切なのです。

<英語上達には流行、世相に敏感でなければダメだ>



(11)好奇心のない人



日本人の友人と母国語である日本語で話しているときにも、「これは英語で何て言うんだらう？」と思ったことはありませんか？ この好奇心のない人は英語がなかなか上達しません。

事あるごとに考える習慣を身につけましょう。例えば
外食しているときなら、

「A定食」って英語ではどう言うんだらう？

「コーヒーのおかわり」はどう頼めばいいんだらう？

「お勘定」は？

また、友人宅を訪れているときなら、

「おじゃまします」って英語ではどう言うのかな？

「おじゃましました」はどうだらう？

といった具合です。意識していればいくらでも思いつきますね。物の名称だけに限らず、行動や会話の中で出てきたちょっとした一言など、なんでも英語に置き換えてみる癖をつけるのです。

その場ですぐに答えがわかるときもあるでしょうし、じっくり合う英語がなかなか思いつかないときもあるでしょう。答えが思いつかないときにも、そこですぐにあきらめてしまわないことが大切です。正確な答えがわからなくても、自分なりに答え（何かの名称ならば自分なりの呼び方）を考え出してみましよう。そして帰宅してから辞書なりインターネットを使って、あらためて正確な答えを探してみるのです。

まったくの見当違いをしていたとしても、がっかりする必要はありません。悩んで学んだことは確実に身につくのです。こうして覚えたことは決して忘れません。語学の習得に好奇心は欠かせないものなのです。

次に、この章の中に登場した問題の解答例を紹介しておきます。みなさんの想像通りでしたか？





それとも違っていましたか？ 違っていたら、どうして違うのだろうか？という疑問を持つことです。そこから、英語と日本語の違い、英語の考え方や話し方が自然と身についてくるものなのです。

いつでも好奇心を持っていることは、英語の上達には本当に大切なことなのです。

◆本文中の疑問への解答

A定食	Combo plate A
コーヒーのおかわりをお願いします。	Can I get a refill?
お勘定をお願いします。	May I have the bill?
おじゃまします。	I'm coming in. Hello.
おじゃましました。	Good-bye. Thanks for inviting me. I had a good time.



(12)英語が論理的だと思い込んでいる人

英語で spring time という「春の時期、春の頃」という意味。これをすべての四季にあてはめて、summer time, fall time, winter time と言えるものだろうと、論理的な人は考えてしまうことでしょう。

しかし、この中にひとつだけ ...time と言えない季節があるので

実は「秋の時期」という言い方は英語にはないのです。よって、fall time という表現は英語ではできないこととなります。fall 以外のもうひとつの秋の表現であるautumn を使って、autumn time とすることもできません。秋というときには、fallあるいは autumn というしかないのです。

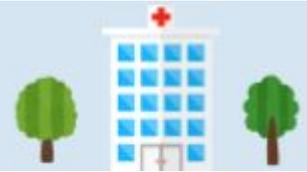
算数や数学ならば、 $1 + 1 = 2$ と論理的に決まった解答が必ず得られますが、英会話の学習では、今の「秋」のれいからもわかるように、そんなふうにはいきません。

英語はある意味論理的ですが、ある意味非常に曖昧で、非論理的なものでもあるのです。

英語で話をするとき論理一辺倒に考えてしまうと、いろいろと不都合なことが起こります。すでに紹介した文法が絶対ではないという話とも重なりますが、文法以外でも、英語はルールだけでは割り切れない言語なのです。

少しルールだけで割り切れない英語の例をみてみましょう。クイズにしてみますので、正解を考えてから答えを読んでみてください。





Q1. **bi-weekly** はどんな意味？

biweeklyには、実は「2週間に1回」という意味と、「1週間に2回」という意味の両方があります。bimonthly や biyearly も同様で、「2カ月に1回／月に2回」「2年に1回／1年に2回」と、2種類ずつの意味になるのです。

<正解> 1週間に2回、あるいは2週間に1回。

Q2. 「燃え上がる」は burn up か burn down か？

「燃え上がる」の「上がる」という日本語から、burn up に違いないと考えたみなさんは、まだ論理病にとりつかれています。英語では、burn up も burn down もどちらも「燃え上がる」という意味になります。まったく違いはないのです。

<正解> 1週間に2回、あるいは2週間に1回。

Q2. 「燃え上がる」は burn up か burn down か？

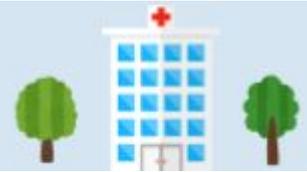
「燃え上がる」の「上がる」という日本語から、burn up に違いないと考えたみなさんは、まだ論理病にとりつかれています。英語では、burn up も burn down もどちらも「燃え上がる」という意味になります。まったく違いはないのです。

<正解> 両方正解。

Q3. 「記入する」は fill in か fill out か？

どこかの中に記入するのだから、fill in のほうだろうと思いましたが？ しかし、実際には、fill in も fill out も、どちらも同じ意味になります。

<正解> 両方正解。



Q4. apparently は「明らかに」という意味か？

apparent (明らかな) という形容詞はご存知ですね。これは

It is apparent that he got married.
(彼が結婚したのは明らかだ)

のように使います。

ではこの文を、apparently という副詞使って、
He apparently got married. と言い換えることができるかという
と、答えはノーです。apparently は「明らかに」という意味では
なく「~らしい」という意味になるのです。

apparently got married. は「かれは結婚したらしい」という意味に
なってしまうのです。この apparently は新聞記事などでも、

The robber apparently broke into the bank at night and got away
with \$2 million.
(泥棒がヤカン銀行に押し入り 2 百万ドルを盗み出した模様)

のような文で使われます。

<正解> そうではない。apparently は「明らかに」という意味
ではない。

Q5. skivvy の語源は何か？

skivvies という英単語をご存知でしょうか？ 「男性用の下着」
のことを skivvy といいます。ではこの単語の語源は、というと、
これがまた面白いのです。実はこの単語、日本語の「スケベ」か
ら借用されて英語化したものなのです。このようにひょんなと
ころからも英語は生まれてきます。言葉は生き物ですから、やはり
論理だけでは語れないものなのです。

<正解> 日本語の「スケベ」。



もちろんすべてがこんなふうでは、もちろんありません。しかし英語だって言葉なのですから、論理だけでは語りきれず、習慣や歴史、そのた諸々の要素が絡み合っって複雑な経路で発展してきたのです。このことを頭に入れ、英語を学習しなければ、生きた英語というものは決して身につかないということがおわかりいただけでしょうか？

<教訓:英語は論理だけでは話せない。柔軟な思考で英語に接していこう>





(13)きちんとした英語をしゃべりたい人 (スラングの重要性)

あなたの会社の上司に「コピーはもうすんだのか？」とたずねられました。コピーはすでに終わらせてあるとしましょう。このとき、あなたならどう返事をしますか？

Yes. でしょうか？

Yeah. でしょうか？ それとも

Yep. でしょうか？

これらはすべて Yes. (はい) のバリエーション達ですが、それぞれに言葉の響き、ニュアンスというものが異なります。

たいていの日本人は、Yes. だけ知っていればそれで十分だと思っています。Yeah. や Yep. など知っている必要もないし、知っていても別段取り立てて役に立つとも思えない、という感想を抱く場合が多いでしょうが、実際の英会話の中では、それぞれが別の役割を果たす重要な返答なのです。

Yes. だけを覚えていればそれで済む、Yeah. なんて知らなくていい、といった類の違いではないのです。

Yeah. と Yep. は、Yes. という返事を俗っぽく言い換えたものから、「ああ」とか「うん」といった、単にだらしのない返事ではないように思えてしまうかもしれません。しかし場合によっては、これらの言葉は、Yes. よりも好感の持てる返事と言ってもおかしくないものなのです。

上で紹介したように何かをしたかどうかをたずねられた場合に、Yeah. あるいは Yep. と返事をすると、実はネイティブには「ええ、やりましたよ」となかなか好感の持てる返事に聞こえます。

逆に、日本人がよく使う Yes. のほうはどうかと言えば、ちょっと突っ慳貪に「当たり前だよ」「はいはい、しましたよ」と言って



いるように聞こえる可能性が高いのです。

日本語でも、「はい」というときに、ちょっと冷たく響くようなことがあると思いますが、それと同じことが Yes. という返事にも当てはまると言うことです。逆に気さくな「ええ」とか「うん」という返事に近い言葉が、Yeah. や Yep. です。もっと厳密に言えば、Yeah. は「ええ」、Yep. は「うん」とか「ああ」という感じだと思

えばいいでしょう。ですから、Yeah. のほうは会議などでも使うことができますが、Yep. はややくだけすぎていて会議などの正式な場で使うのにはあまり向いてはいないのです。

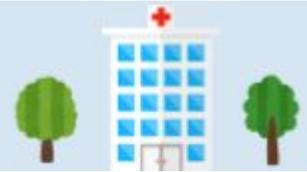
いかがでしょうか、「はい」という返事にも、いろいろな言い方があり、それぞれに多様なニュアンスを含んでいることがわかりただけたでしょう。



これと同じことが、英語のさまざまな表現にも当てはまります。ですから、いくら辞書に「この言葉はスラングだ」と書いてあっても、それらは決して無視してはならない情報なのです。言え、かえってスラングと書いてある単語やフレーズこそ、英会話のいきいきとしたニュアンスの宝庫だと言ってもいいかもしれません。

スラングやインフォーマルな表現をバカにして覚えようとしらない人の英会話は、とても窮屈で、高尚ぶった感じに聞こえてしまいます。これでは、話をしているネイティブとしてもあまり面白くはありませんね。みなさんは、ぜひともカジュアルな口語やスラングを覚えて、英会話上手になってください。

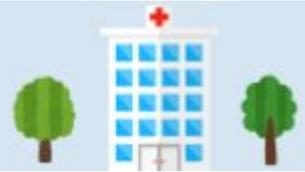
ここでフォーマルな表現とカジュアルな表現を対比してみます。それぞれにニュアンスが異なることを実感しながら、読んでみてください。リストの左側がフォーマルで堅苦しい言い方、右側が気さくな口語的、あるいは俗っぽい言い方です。もちろん、左の列の表現も必要ですが、すでに述べたように、右の列の言葉を覚えること



がみなさんの英会話を楽しく弾むものに変えてくれるはずです。

◆かしこまった表現とカジュアルな表現

かしこまった表現	気さくな表現
How are you? (こんにちは)	<ul style="list-style-type: none">・ How ya doing? (どうしてる?)・ What's up? (最近どう?)・ How's it going? (調子はどうだい?) * いずれも普段のあいさつ表現です。
Fine, thank you. (ええ、元気です)	<ul style="list-style-type: none">・ Not bad. (なかなかいいよ)・ Not too bad. (なかなかだよ)・ Pretty good. (絶好調だよ) * 「元気ですか?」「調子はどうですか」という質問への返答です。
No thank you. (いいえ、結構です)	<ul style="list-style-type: none">・ No thanks. (いえ、いいです)・ That's okay. (いいです) * 相手の厚意を断るときのフレーズです。
I don't know. (私にはわかりません)	<ul style="list-style-type: none">・ Who knows? (知らないよ)・ You got me. (降参だよ) Wouldn't know. (ぜんぜん) * 質問に答えられないときの返事です。
Hello. (こんにちは)	<ul style="list-style-type: none">・ Hiya. (こんちは!)・ Hi, there. (やあ!) * これも日常のあいさつ表現。
You're welcome. (とんでもない)	<ul style="list-style-type: none">・ Sure thing. (オッケーですよ)・ No problem. (問題ないよ)・ Anytime. (いつでもどうぞ)・ You bet. (任せといてよ) * いずれも、お礼を言われたときの返事です。
That is true. (そうですね)	<ul style="list-style-type: none">・ Yeah, I know. (そうだよね)・ Yeah, you're right. (ああ、そのとおりだよ)・ You got that right. (そのとおり)・ You know it. (そうだとも)



	*いずれも、相手への賛意を示すひとことです。
What is your name? (お名前は何ですか?)	I'm Midori. And you're...? (私はミドリです。あなたは?)
Please come in. (どうぞお入りください)	Come on in. (さあ、入って)
I am going to go now. (もう行かねばなりません)	I gotta go. (私、行かなきゃ)
Do you want want to watch TV? (テレビが見たいですか?)	<ul style="list-style-type: none"> • Wanna watch TV? (テレビ見る?) • How about some TV? (テレビなんかどう?)
Why? (どうして?)	How come? (なんで?) *実際の会話では、Why? よりも How come? の使用頻度のほうが高いのです。
Would you please close the door? (ドアを閉めていただけませんか?)	<ul style="list-style-type: none"> • Mind closing the door? (ドア締めてもらえない?) • Could you get the door? (ドアをお願いね) *get the door は「玄関に出る=answer the door」という意味でも使えます。
What are you doing? (何をしているの?)	<ul style="list-style-type: none"> • Wacha doing?(何してんの?) • What's up?(どうしたの?) • What's happening? (どうなってるの?)
Are you okay? (大丈夫ですか?)	You okay? (ダイジョブ?)
Are you sure about that?(それは確かですか?)	Ya sure? (ホント?)
I can not go. (私は行けません)	I can't go. (行けないわ)
Please give my regards to your parents.	Say hi to your parents for me. (ご両親によろしくね)



(ご両親によろしくお伝えください)

<教訓: 英語では、堅苦しい表現よりも気さくな言い回しが大切>





(14)相手を呼び捨てにできない人

前の章では、気さくな言い回しの重要性についてお話ししましたが、同じことは英語での呼びかけ表現についても言えます。

例えばだれかに感謝を述べる時、みなさんは次のうちどちらの言い方を好んで使うでしょうか？

- A. Thank you, Mr. Smith.
B. Thank you, Bill.

実は A. はとても日本的な言い方に聞こえ、B. のほうはとてもネイティブらしく聞こえます。

その種明かしをすると、Mr. やMrs. などの敬称を使うと、日本語で「さん」づけをする感覚以上にかしこまった感じがしてしまうのです。日本語の「～さん」という言葉は、ていねいであると同時に、とても親しみのこもった言い回しですが、英語のMr. や Mrs. について言えば、ていねいではあっても、親しみのこもった言い回しなどでは決してないのです。

最近では、相手にはじめて送る Eメールなどでも、Mr. や Mrs. あるいは Ms. を使って

Dear Mr. Smith,

のように表現するよりも、ファーストネームだけを使って、

Dear Bill,



とするほうが一般的になっているくらいです。

Eメールでさえ、Mr. や Mrs. を避けるのが一般的なのですから、いわんや日常英会話をやです。ネイティブたちは、最初に取りあげた例の A. のように、相手に呼びかけることなど減多にしないのです。敬称が使われるのは、たいてい、性別の識別が必要な場合や、既婚、未婚の区別が必要であるような場合に限られます。

例えば、ケリーという名前は男性にも女性にも使われますから、その場合には、性別をあきらかにするために Mr. Kelly Smith. あるいは Miss Kelly Smith. の用に表記するのです。

ネイティブは日常会話での呼びかけには、ファーストネームを使うことが、ここまでの説明でよくおわかりいただけたのではないかと思います。

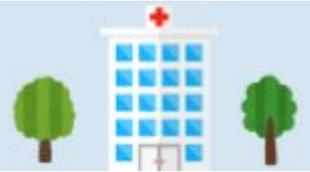
ファーストネームでなく、敬称をつけると、親しみのこももらない、冷やかな言い方になります。相手と友達になろうとしていると言うより、相手を敬遠しているかのようなよそよそしい印象を、ネイティブに与えてしまうのです。

ただ、子ども達は先生など目上の人に向かって Mr. や Mrs. をつけて呼ぶようにしつけられていますから、これは例外です。だいぶ年上で敬意を払うべき人に対しては、格下のものが呼びかけるときには敬称をつける習慣が、まだ少し残っているのです。ですから、日本人がネイティブに向かって、

Mr. Johnson, ...

などと呼びかけた場合、よそよそしい感じがするのと同時に、その人物より自分のほうが劣っているというニュアンスを同時に醸し出していることになります。

ですから、敬称を使って呼びかけることは、なんだか、子どもや使用人などが、雇い主や先生に対して呼びかけているような、そんな卑屈な感じで受け取られてしまう可能性も高いのだと言えるでしょう。



しかし、ネイティブは人間みんな同等だという感覚で生きていますから、敬称つきで呼びかけられるのはとても居心地の悪い感じがします。ネイティブは、本当に敬称が好きではないのです。

ですから、逆に、「私を田中さんと呼んでください」とネイティブに伝えようとして、

Call me Mr. Tanaka.

などと言ってしまうのは、ぜひとも避けなければいけません。相手を敬遠しているようにも、また、相手よりも自分のほうが格上であると言外に主張しているようにも受け取られかねないのです。

こんなふうな会話からは、決してフレンドリーでポジティブな関係は期待できないことでしょう。

ネイティブと話をするときの呼びかけには、ぜひファーストネームを使うことをお勧めします。そこからは、親しみのこもった、互いに気のおけない会話が生まれてくるはずだからです。

また、ファーストネームが照れくさいというのであれば、ニックネームで呼んでもらうのもいいでしょう。

例えば、あなたが弘文という名前なら、Hiro、裕次郎という名前なら Yuji、明子という名前なら Aki のように呼んでもらえばいいのです。このように短いニックネームで呼んでもらえば、あまり長い日本語名を発音するのが得意ではないネイティブも気が楽です。お互いにできるだけ気楽に会話ができるような工夫も、英会話をどんどん弾ませるためのひとつの大切な条件なのです。そこから楽しい会話が生まれ、みなさんの英語もどんどん上達していくようになるでしょう。

また、ニックネームもちよっと照れくさいというのであれば、次のようにネイティブに説明してみましょう。

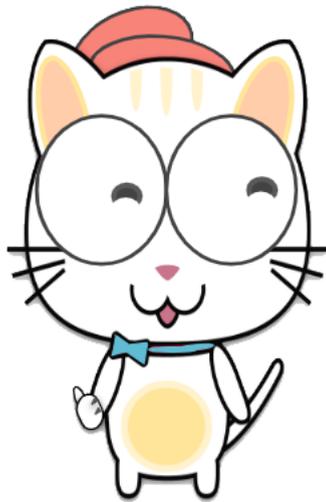




I'm Hiroyuki Sato. Everyone calls me Sato-san.
My name is Midori Tanaka. Everyone calls me Tanaka-san.
(私は佐藤浩之です。みんなはぼくのことを佐藤さんと呼びます)

このように言えば、ネイティブは「さん」という日本語を相手のニックネームの一部のような感覚で使うことができますし、日本人の側も、いつもと変わらない感覚で呼びかけてもらえますから、お互いにじっくりくるでしょう。とにかく、楽しい会話を、気楽な呼びかけ表現を使って進めることが大切です。それには、つい見過ごされてしまいがちですが、英会話の潤滑油となる、気楽で気さくな呼びかけ表現がぜひとも必要だということを覚えておきましょう。

<教訓：呼びかけの方法にも気さくな言い方とそうでないものがある>





(15)発音ばかりを気にして、イントネーションを無視する人

あなたがネイティブに日本料理を作ってあげたとしましょう。天ぷらでも、ちらし寿司でもかまいませんが、ネイティブにその感想を聞きたくなるはずです。

How would you feel? (感想はどう?)

といった表現でたずねてみたとき、相手の返事が

Not bad.

というものだったからといってがっかりしてはいけません。これは、「悪くはないね」という意味で言ったのではなく、「とてもおいしいよ」という意味の発言なのであります。

どうして Not bad. (悪くはない) と言っているのに、「とてもおいしい、最高だ」という意味になるのか、その謎に迫るのには、英語の調子 (イントネーション) のことを理解していなければなりません。

日本人は L と R だとか、w とか th とか、発音に関しては、やたらと神経質に考えていますが、ことイントネーションとなると、「イントネーションって一体なんなの?」と疑問を覚えるくらいに、さっぱりほったらかしです。

しかし、実は、発音などよりも、このイントネーションのほうが使える英語を話すのには重要な役割を果たしているのです。

まず発音についてですが、発音が少し違っていただけからといって、ネイティブにはほとんど問題なく理解可能です。英語圏の国には、アメリカ英国だけでなく、旧アメリカ領や英国領など、さまざまな国々が含まれていますから、それらの国の間で、発音というものは



本当にまちまちなのです。ですから、こう言うては変ですが、ネイティブたちは多少変わった発音には慣れっこになっているのです。

かなり聞き取りづらい発音をするインド人の英語も、アメリカ人は理解することができますし、オーストラリアのように発音に非常に癖のある英語も、英語圏の人たちはちゃんと互いに理解できるのです。

たとえば、日本人のあなたが、

I eat rice for breakfast.

(私は朝食には米を食べます)

と言う代わりに、

I eat lice for breakfast.

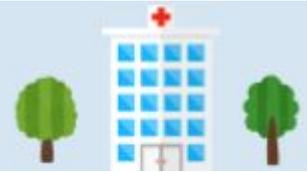
(朝食にはシラミを食べます)

と言ったとしても、ネイティブは、あなたが「シラミ」を食べるなどとは決して思いません。実は、英語の発音というものは、英会話にそれほど深刻な問題を生じないものなのです。

しかし、イントネーションとなると、話は少し違ってきます。イントネーションひとつで、相手に伝わる英語の意味がまったく違っていいほど変わってしまうからなのです。

では、実際の例を少しみていくことにしましょう。すべて大文字で書き記した部分が強く抑揚をつけて話される部分です。どこをどう強い調子で読むと、どんな意味になるのかをご覧ください。みなさん、驚くべき意味の変化に愕然としてしまうかもしれませんね。





◆イントネーションで大きく変わる英語の意味

You have it.	(君はそれを持っている)
YOU have it.	(持ってるのは<私じゃなく>君だ)
You HAVE it.	(君はもうすでに持ってるよ)
You have IT.	(それを君はもっている)
Why didn't you go?	(なんで行かなかったの?)
WHY didn't you go?	(行けばよかったじゃないか) * 行くべきだったのに行かなかった人に対して、「行けばよかったのに、行けばよかったじゃない」という意味で使います。
Why DIDN'T you go?	(行かなかったのはなぜなの?)
Why didn't YOU go?	(あなたが行くはずじゃなかったの?) * 「別の人に行かせて、自分で行かなかったのはなぜ?」という含みです。
SHE love you.	(私ではなく、彼女こそが君を愛しているんだ)
SHE LOVES you.	(彼女は君のことを本当に愛しているよ)
She loves YOU.	(彼女が愛しているのは君だよ)
"I" wouldn't do it.	(ぼくだったらそんなことはしないね)
I WOULDN'T do it.	(ぼくはそのことは私は絶対にしないよ)
I wouldn't do IT.	(そなおかしななことはぼくはしないよ)
I don't think you	(行かないほうがいいと思うよ)



should go.	
"I" don't think you should go.	(私としては、行かないほうががいいと思うな)
I DON'T think you should go.	(行かないほうががいいよ、絶対に)
I don't think you should GO.	(行くのは絶対にやめたほうがいいと思うよ)
I don't THINK you should go.	(行かないほうがいいかな)
I don't think YOU should go.	(ほかの人はともかく、あなたは行ってはダメだよ)
I don't think you SHOULD go.	(行けないと思ひ込む必要はないよ)
WHO are you?	(あなたのことは知らないよ)
Who ARE you?	(あなた、いったいだれなんだい?) * 本当に相手の素性を知りたいときに。
Who are YOU?	(あんたは一体だれなんだ?) * 「ほかならぬお前はだれなんだ?」とたずねるニュアンスです。

紙面の都合で、これ以上詳しい説明はできませんが、イントネーションの違いで、英語の意味がとても大きく変わってしまうことが実感してもらえたでしょうか？相手に伝わる英語を話すには、発音ばかりに気を取られていることなく、いくらかでも正しいイントネーションを学んだほうが、効率がアップするはずですよ。

これから先、英会話の CD など英語の練習をするときには、発音以上にイントネーションの仕方にしっかりと耳を傾けて聞いてみるように心がけてみましょう。これまでのみなさんの英語観がとても大きく変わってくるに違いありません。



(16)No.と言えない人、お茶を濁す人、曖昧な人

I'll think about it.

(考えてみます)

という、とても日本人に好まれそうなフレーズですが、この言い方をビジネスの打ち合わせなどで使ったことはないでしょうか？

日本語で「考えてみます」というと、どちらかと言えば、積極的に検討するというよりも、遠回しにノーと言うときに使うことが多いと思います。しかし、日本人に話をするようなつもりで、上述の

I'll think about.

という表現をネイティブに向かって使うと大失敗を招きかねませんから、十分に注意したほうがいいでしょう。

実は、この I'll think about it. というフレーズは、ネイティブにとっては遠回しな断りに聞こえないのです。ネイティブはこの表現を聞くと、相手がきちんと検討してくれると考えます。また、将来の返事がイエスである確率とノーである確率は五分五分くらいだろうと、頭の中で思い描くのです。

ですから、一度ならまだしも、何度も繰り返しこの I'll think about it. というフレーズを使い続けていると、ネイティブたちから嘘つきのレッテルを貼られてしまう可能性だってあるのです。

このフレーズは適当にお茶を濁して返事を曖昧にするときなどに使うべき英語ではなく、本当に検討する時間が必要なときにだけ使うべきものだということなのです。

英語ではきちんとノーの返事をするほうが、お茶を濁すのよりも好まれます。そのほうが、相手へ敬意を表すことになるのだと考えられるのです。曖昧な返事でもその場を言い逃れたりするのはとても不誠実で相手を軽視しているような印象を強く与えてしまうことでしょう。ただし、あまりにもストレートにノーと言いつぎるのも失



礼に当たります。ネイティブたちがいくらストレートにもの言うからと言って、彼らに遠慮や気配りがないわけではないのです。

ここから先は、どのようにネイティブにノーを言えばいいのか。はっきりと自分の意思を示しながら相手を傷つけずに済むか、表現を例にとりながら少し説明していきましょう。上手にノーと言えること、それも英会話上手になるための重要なポイントのひとつなのです。

◆「ノー」のバリエーション

No. (いやです)

何かに誘われたときなどにNo.と、ひとことで答えてしまうのは、あまりのも無愛想です。No.とひとことだけで済ませてしまうと、「いやですよ」と言っているように聞こえてしまいますから、本当に強く自分の否定的な意思を伝えたいとき意外には、この言い方だけで済ませてしまうのは問題があります。

Nah. (やめておきます)

これは No. のバリエーションで、「ナー」の用に発音します。スラングのように思えるかもしれませんが、やわらかくノーと言いたいときにとてもよく使われる言葉です。例えば、いっしょにどこかへ行こうよと誘われたときに、Nah. と返事をすれば、「やめておこうかな」と言っているような響きが出せます。

Nope. (やめとく)

これは気さくな感じでノーと言うときに使われるひとことです。場合によってはややカジュアルすぎる感じがしますが、とても長い間使われているので、若者言葉というほどくだけすぎているわけではありません。会議など公式な場では避けたほうがいいと思いますが、ごくフランクな関係の人とのコミュニケーション



では、この Nope. を使っても、何の問題もありません。

No, thank you. (いいえ、結構です)

これは thank you というフレーズが加わっているので、ていねいな言い方だと思われがちですが、ややぶっきらぼうで形式的な感じがします。日本語にすると、「いいえ、結構」といったニュアンスに近くなります。レストランのウェイトレスなどに、断りを入れるときに使うのはかまいませんが、友達に対して使うとちょっと冷たすぎる感じがしてしまいますので、ご注意ください。

Thanks, but no thanks. (ありがとう、でもいいわ)

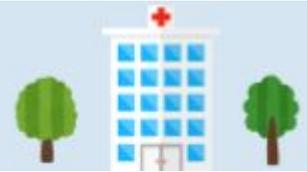
No, thank you. をフレンドリーに表現したいのなら、このフレーズを使うのがいいでしょう。これなら友人に使っても冷たい感じはしません。また、フォーマルな場面でも使うことができる幅の広いフレーズですから、覚えておくにととても役に立ちます。

I don't think so. (それはできないと思いますよ)

ていねいな断り表現です。強い口調ではありませんが、きっぱりとした断りのひとことです。

No way. (お断りです)

No! (ダメだ、いやだ!) と強くはっきりと断るのと同じ感じにのひとことで、
There is no way in hell that I'm going to do that.
(私がそうすることなど絶対にあり得ない)
を短くしたフレーズです。



後ろに Jose という単語をつけ、No way, Jose. とすると、冗談っぽくちょっとおどけたニュアンスに変わり、「そりゃ無理だよ、君」という感じが出てきます。

No, sir. / No siree. (いいえ、それはなりません)

どちらも、男性だけでなく女性にも使います。
もともとは尊敬すべき相手に対しての返事として使っていたもので、軍隊では今でも使われています。しかし日常会話の中で使われるときには、わざとらしく尊敬しているかのような口調で、冗談めかして断りを入れるニュアンスになります。
siree は「とんでもない」という意味。

以上、代表的なものを取りあげておきましたが、ネイティブはさらにさまざまな言葉でノーを言います。以下にあげる表現のすべてを覚える必要はありませんが、耳にしたときには、とりあえず理解できるようにしておきたいものです。ちょっとウィットの効いた面白みのある断りのフレーズばかりです。

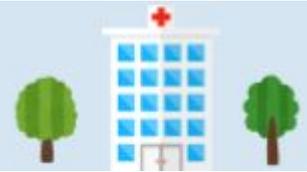
◆ウィットに富んだ「ノー」の言い方

You're out of luck.	(残念だけど無理だよ) * 「君はついてない」が直訳。
In a pig's eye.	(とんでもない)
When pigs fly.	(ブタが空を飛んだらね)
When hell freezes over.	(地獄が凍りついたらね) * 地獄、煉獄は炎に満たされているので、凍りつく可能性はほとんどないところから、このような表現が生まれました。
There isn't a snowball's chance in hell.	(あり得ないよ) * 地獄の中の雪玉くらいのチャン



	スしかないということ。
Only in your dreams.	(夢の中でならあるかもね)
Dream on.	(夢を見てなよ)
Save your breath.	(ムダだよ) * 直訳は「呼吸を無駄づかいするな」。
Forget it.	(忘れなよ)
Not in a million years.	(百万年に一度だって無理)
Not in your wildest dreams.	(お前の夢の中でも無理だ) * wild dream は「たわいない夢」の意。
You wish.	(祈ってなよ)
Like hell.	(絶対にあり得ない) * Like hell I'll apologize to Tom. トムに謝るのなんて絶対に嫌だ) のようにも使えます。
That's out of the question.	(問題外だ)
That's unthinkable.	(まったく考えられない)
That's insane.	(正気の沙汰じゃないよ)

＜曖昧な返事は混乱を生む。「ノー」は、はっきり、しかし上手に伝えよう＞

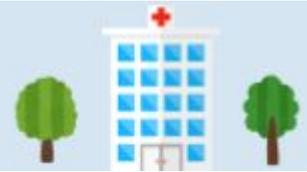


(17)ほめるのが下手な人

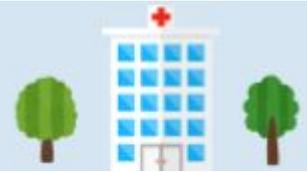
日本の文化では、相手をほめることはそれほど重要だと思われていません。しかし、ネイティブたちは事ある毎に相手をほめ、関係をスムーズにすることに努めます。

自分の子どもでも、部下でも、同僚でも、だれかが何かをうまくこなしたり、やり遂げたりしたときには、お互いにほめ言葉を掛け合うのが、日常的な習慣になっているのです。ですから、ネイティブとのコミュニケーションを上手にとりたいのなら、ほめ言葉を覚えておくことはとても重要です。ここでは、ネイティブが、毎日のように繰り返し口にするさまざまなほめ言葉をご紹介します。ぜひとも英語のほめ言葉を使いこなして、ネイティブたちとのスムーズで親密な人間関係を手に入れてください。

Bravo.	(ブラボー)
Excellent!	(すばらしい)
Fantastic!	(すばらしい)
Good thinking!	(いい考えだね！) *What a great idea! (すばらしい考えだね) もほぼ同じ。
Great going!	(うまいぞ) *Nice going. と言ってもほぼ同じです。
Great job.	(すごいね) *これも Nice job. と言ってもかまいません。
Great work.	(すごいね)
How smart.	(賢いね、利口だね)



	* smart は「賢い、利口」の意。
I admire you.	(すごいね) * admire は「感心する、称賛する」という意味の動詞です。
I appreciate your effort.	(君の努力はすばらしいよ) * appreciate は「評価する、良さがわかる、真価を認める」という意味です。
I knew you could do it!	(やっぱりやってくれたね) * 直訳は、「君にはできるとわかっていた」。
I wish I had your talent.	(君みたいな才能があったらな) * I wish... (～だったらなあ) と、仮定法で相手をほめる言い回しです。
Right on.	(その調子!、そうだ!)
That was an impressive job.	(大したものだよ) * impressive は「印象的な」という意味の形容詞。
That's awesome.	(すごいね!) * awesome は「とてもすごい」という意味。
That's incredible.	(信じられない)
That's perfect.	(完璧だ!)
That's the best.	(最高だ!)
There's nobody like you.	(君みたいな人はいないよ)
This is super.	(すごい!)
Way to go!	(その調子だ!)
Well done.	(よくやった)



You did a fantastic job!	
You did it.	(やったね！)
You do beautiful work.	(上手にできたわね) * beautiful work は「すばらしい仕事」。
You have a lot of patience.	(我慢強いね) * patience は「忍耐」。
You look stunning.	(すごく魅力的だ) * stunning は「気絶するほど魅力的、美しい」の意。
You made my day.	(お陰でいい気分だ) * 「君がぼくの一日を作ってくれた」が直訳。
You really impress me.	(本当に感動したよ) * impress someone は「～を印象づける」。
You tried hard.	(頑張ったね) * try hard は「懸命に頑張る」。You tried your best. (君はベストを尽くしたよ) と言ってもほぼ同じです。
You're a real pro!	(君ってプロだね) * pro は professional の省略です。
You're amazing!	* amazing は「驚くような、ビックリするような、すばらしい」という意味。
You're very creative.	(君は創造的だね)

ここまでは、ほめ上手になるための表現をいろいろと紹介してきましたが、次にほめられたときの返答も紹介しておきましょう。

日本人はほめられたときあまり上手に感謝することができません



が、実はこれは英語のネイティブスピーカーに関してもそれほど変わらないのです。

いずれにせよ、相手にほめられたとき、どのような受け応えをすべきなのかを知っておくと、相手のほめ言葉をムダにせず、相手の言葉をきちんと受け止めたことを示すことができますから、コミュニケーションの流れはスムーズになります。

◆あまりうまくないほめ言葉への返事

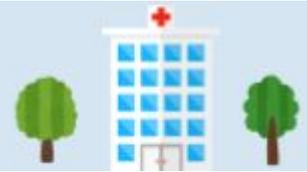
まず、あまり上手でない反応の仕方をみてみましょう。ネイティブでも、ほめられたとき次のように返事をする場合があります。

That's not true.	(そんなことはありませんよ)
Not really.	(それほどではありません)
You're just joking.	(ご冗談を)
That's just flattery.	(おべっかばかり)
Don't say that.	(そんなことおっしゃらないで)

とても日本語の謙遜表現に似ていますが、ネイティブたちもこのような言い方で照れ隠しをすることがあるのです。しかし、これらの表現は相手がせっかくほめてくれたことを拒絶してしまうことにもなりかねませんし、逆に相手にほめ言葉を繰り返させることにもなりかねません。例えば、次のような場合です。

- A. You're so beautiful. (とてもおきれいですね)
B. No, that's not true. (そんなことはありませんよ)

もし、Bさんがこのように「そんなことはありませんよ」と言い返したとしたら、Aさんはどうなるのでしょうか？ Aさんは、いえ



いえ、「やはりおきれいですよ」と、さらにもう一度ほめ直すしかないことになるのです。「いいえ、やっぱりブスでした」とは口が裂けても言えないでしょう。

いずれにせよ、この B さんの返事の仕方はネイティブを困らせてしまうことに違いはないのです。ですから、だれかにほめられたときは、素直に感謝の言葉を述べるのが最良の策なのです。そうすることで、ふたりの会話はぎこちない状況を抜け出し、自然な流れに戻っていきます。

では、ほめ言葉への感謝の気持ちを表すことばを少し取りあげておきましょう。

まず、あまり上手でない反応の仕方をみてみましょう。ネイティブでも、ほめられたとき次のように返事をする場合があります。

Thank you.	(ありがとう)
Thank you for the complement.	(ほめてくれてありがとう)
That means a lot coming from you.	(あなたがそう言ってくれるでとてもうれしいです)
What a nice complement!	(何て素敵なほめ言葉なんでしょう)

このようなフレーズで、ほめ言葉に対して素直に感謝するのが、最も上手な英語の使い手のやり方なのです。

ただし、実際には何らかの利害があってほめ言葉を口に出している人もいます。そのような状況が明らか場合には、感謝する必要はありません。相手への警告も含めて、



Don't patronize me.
(そんなにほめないでよ)

というひとことを返せばいいでしょう。patronize は patron という単語から生まれたものですが、これは「ご贔負、ひいきの客」といった意味ですから、patronize となると、「客扱いする、客として引き立てる」という、日本語の「ほめ殺しにする」という言葉に近いニュアンスになります。

「私にはほめ殺しは通用しないわよ」というニュアンスのひとつが、Don't patronize me. という英語表現なのです。

これに似た言葉に、

Atop brownnosing. (おべっかはやめなさい)

という言い方もありますが、こちらはだいぶ下品な感じの言い方ですからノンネイティブである日本人がわざわざ使う必要はありません。brownnose という単語は犬が主人のお尻を舐めるイメージを連想させる動詞なのです。アメリカでは brownnoser (おべっかつかい：主人の言うことなら何でも聞き入れる人物) と呼ばれることはとても恥ずかしいこととして軽蔑されているのです。

<英語のコミュニケーションではほめることは大事な文化。上手にほめ、上手にほめられればコミュニケーションがうまくいく>



(18)感情表現が下手な人

とある日本企業の部長が、アメリカ工場の立ち上げを支援するために派遣されたときの話。会議の席上、部下からプラントの建設がとても順調に進んでいるという報告を受けて、とてもうれしい気持ちになり。

「私はとても喜んでいる」と英語で言うときに、

I am joyous.

と大声で発言したのだそうです。しかし、この発言を耳にした現地のネイティブスタッフ達は大笑を始めてしまったのだそうです。

実はこのjoyousという単語は、宗教的な喜びの感情を表す単語で、ふつうにうれしいときにはこの単語を使うのは、教会の牧師が主の恵みに触れた喜びを表現しているときのような、本当に的外れな感じがしてしまうのです。

また、日本人は、この例からもわかるように、

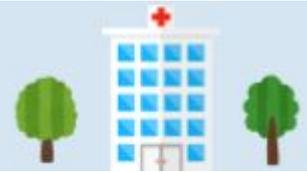
I am.... (私は～です)

という言い方で気持ちを表現することがとても多いと思いますが、これもやはりネイティブには馴染みのない気持ちの表し方です。

I am sad.
I am angry.
I am happy.
I am surprised.

などの言い方はいずれも、「私は悲しい状態だ」、「私は怒っている状態だ」、「私はうれしい状態だ」、「私は驚いた状態だ」と言っているのに近い感じで、自分の気持ちを客観的に分析して述べているような感じがしてしまうのです。

しかし、英語では、自分の気持ちを表現することは、自分の意見



を主張するのと同じくらい大切なことです。その気持ちの表現を日本人の多くが苦手としているわけですから、日本人に英会話上手が少ないのも納得できますね。

自分の気持ちを上手に伝えるためにも、また相手の感情を深く知るためにも、ぜひとも覚えてほしいのが英語の感情表現なのです。

この章では、手始めとして、気持ちの表現の中でもはずかしが利屋の日本人が最も苦手とする、喜びの気持ちを表すフレーズと声援のフレーズの数々を紹介しておくことにします。

◆驚嘆や喜びの気持ちを表すひとこと

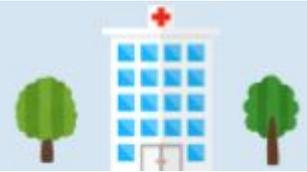
Amazing!	(すごい)
Astonishing!	* amaze, astonish, astound はいずれも「驚かせる」という意味の英単語です。
Astounding!	
Awesome!	(すごい) * awesome は「畏怖の念を抱かせるほどすごい、とてもすばらしい」という意味の単語。
Bitchin'!	(すげえ、カッコいい) <スラング> * bitchingとも綴りますが、bitch (あばずれ女) と言うスラングが変化したもの。
Brilliant!	(すばらしい) * 「ブリリアント」は日本語にもなっています。もともとは「キラキラとした燦然たる輝き」を表す形容詞です。
Cool!	(いかす、カッコいい、すごい) * 元は「クールな、涼しい」という意味の形容詞。「いいよ、了解」という意味でもつかえます。
Coolness!	(いかす、カッコいい、すごい) <スラング>



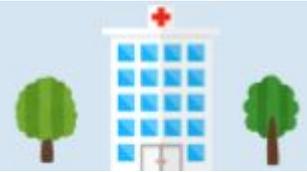
	* ひとつ上の cool の名詞形です。
Dandy!	(最高！) * 日本語のダンディーという意味では、現在の英語ではほとんど使われません。
Delightful!	(うれしい) * What a delight! と感嘆文で表現することもあります。
Dynamite!	(バツグン、最高) * 「ダイナマイト」 級に凄い、バツグンということです。
Excellent!	(すばらしい)
Exceptional!	(すごい) * exception は「例外」。「例外的に凄い、秀でている」という意味から。
Fab!	(信じられない！) * Fabulous! の短くなったもの。「伝説や寓話にでも登場しそうなほどすごい」といったニュアンスです。fabulous hero と言えば「伝説上のヒーロー」という意味
Fantastic!	(すばらしい) * もともとは「幻想的な」という意味。かつて、飲み物の「ファンタ」のCMでつかわれていたフレーズですね。
Far out!	(すごい) * 「はるかに飛びだしている」が原意。今の世の中にはないほどすごいものというニュアンス。
First-class!	(すごい、とびきりだ、最高だ) * 「第一級の」がもともとの意味。
Goodie! Goody!	やったー、ワーイ、すごーい) * うれしい気持ちを表します。goody は「ご



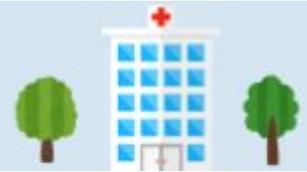
	ちそう、おいしいもの」という意味もあります。
Grand!	(すごい) *もともとは「壮大な」という意味の形容詞。Grand Canyon (グランドキャニオン) は「壮大なる溪谷」という意味ですね。
Great!	(すばらしい)
Groovy!	(いかす、かっこいい、しびれる) * Let's groove tonight! という歌のくだりがありますが、動詞の groove は「楽しく過ごす」という意味です
Hallelujah!	(やったー、すばらしい) *もともと「ハレルヤ」という神を称える叫び声。ヘブライ語で「エホバを称えよ」という意味です
Hooray!	(いいぞ、やったー、バンザイ)
Hot damn!	(これはいい、やったー) * やや下品な感じの言い方です。
Hot!	(すごい!)
Hot dog!	(やった!)
I've died and gone to heaven!	(もう死んじゃうほど最高!) *直訳は「死んで天国にいる」となりますが、天にも昇るほど最高という意味で使われます。
Incredible!	(信じられない、すごい)
Lovely!	(素敵、かわいい) *女性が好んで使う表現で、男性が使うと、オカマみたいになよなよした感じになります。



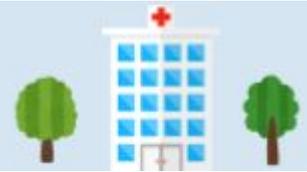
Magnificent!	(すごい) * もともとの意味は「壮麗な」。
Marvelous!	(すごい) * marvel (驚嘆) の形容詞。marvel of nature といえば「自然の驚異」という意味になります。
Neat!	(かっこいい、素敵) * 既出の Cool. に近い響きのひとこと。neat はもともと「きちんとした、片づいた、趣味のいい」という意味の形容詞。Neat-oh!, Neato!, Nifty! などのバリエーションがあります。
Oh, boy!	(へー、すごい) * boy はここでは、「少年」という意味ではなく、驚きや喜びなどを表す間投詞。
Ooh la la!	(オーッ！) * ooh! もほぼ同じで、驚嘆を表します。
Out of sight!	(いかす、しびれる、最高) * すばらしさの度合いが高すぎて目に見えないほ空高くにあるということから、「最高」という意味で使われるようになったもの。これがスラング化したものにOutta' sight! があります。
Outstanding!	(すごい、ピカイチ、最高) * outstanding は「抜きんできた」という意味の形容詞。
Perfect!	(完璧、最高)
Phat!	(いかす、かっこいい) <スラング> * 発音は「ファット」。pretty, hot and tempting (かわいくホットで魅惑的) の略。
Praise the lord!	(主を称えよ！)



	* 神様を称えたいほど最高の気分の際に使用しましょう。
Rad!	(すごい、最高) * Radical! の短くなったもの。radical はもともと「過激な、急進的な」という意味。
Righteous!	righteous のもとの意味は「公正な、正義の」。
Sensational!	(すごい) * 「世の中をあっという間に驚かせるような」というのが sensational のもとの意味。
Slammin'!	(すごい) * slamming と綴ります。
Smashing!	(すごい) <英語> * 「猛烈な一撃」が smash です。
Spectacular!	(すごい) * 豪華なショーや見せ物、映画などの超大作なども spectacular と表現します。
Spiffy!	(おしゃれ！) * あか抜けておしゃれな物を指して使います。
Splendid!	(素晴らしい) * 洗練されたものや行為を称賛するひとことです。
Stupendous!	(すごい) * 並外れたものに対して使います。
Super!	(すごい) * これも並外れたものや動作、行為などに対して使います。Superb! もほぼ同じ意味になります。
Terrific!	(すごい、素晴らしい)

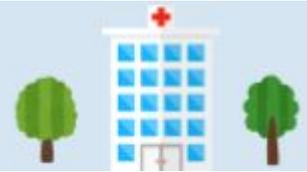


Kicks ass!	(すげー) * 直訳は「ケツをけっ飛ばす」。スラングっぽい驚嘆のフレーズ。
This rocks!	(これはすごい) * rock はここでは「岩」ではなく、「すばらしい」という意味を表す口語表現です。
Tight!	(いかした、かっこいい) * この場合は、「締まった、ピンと張った」という意味ではありません。
Tubular!	(最高) * サーフィンで大波がくだけてできるトンネルのような空間を tube といいますが、この語から生まれたひとが tubular です。
Way out!	(すごい) * 既出の Far out. に近い言葉。
Well, blow me down!	(へー、こりゃ驚いた！) * blow someone down は「～を吹っ飛ばす」の意。
Well, how about that!	(こりゃすごい！) * 日本語でも、「おや、これはどうだい」という言葉で驚きを表すことがあります。それと同じ感じですよ。
Well, I'll be!	(こりゃぶったまげた) * I'll be blown! (こりゃぶっ飛びそうだ) の短くなったもの。
Whoa!	(すごい!、やったー！) * Wow もほぼ同じ。
Why, I'll be darned!	(ありゃー、こりゃ参った！) * why はここでは驚きを表す間投詞で、「親、粗、まあ」の意味。
Wicked!	(すごい、最高)



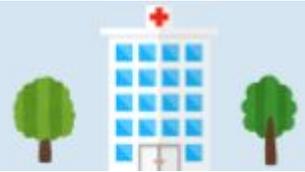
	*発音は「ウィキッド」。もともとは「ひねくれた、性格の悪い」という意味の形容詞です。
Wonderful!	(すばらしい)
Wow!	(すごい!) *発音は「ワウ」。
Yahoo!	(わーい、やったー) *山登りのときの「ヤッホー」はこれです。インターネットの検索エンジンのyahoo もここから取った名前です。
Yee-haw!	(やったー) *Yahoo. の類語です。
Yes!	(やった!、そうだ!)
Yippee!	(わーい) *喜びを表します。発音は「イッピー」。
Zowie!	(ワー、わーい) *「ザウイ」と発音します。

ここまでは、ネイティブが非常に頻繁に使う驚嘆や喜びのフレーズを紹介してきました。このほかにも気持ちを表す表現は多種多様ですが、このほかの表現は巻末にまとめておきます。機能別にもっともよく使われるものばかりをまとめておきますので、ぜひ会話上達の参考にしてください。



◆応援、声援 (CHEERS)のフレーズ

Attaboy! / Attagirl!	(お見事、その調子だ) * 「アタボーイ、アタガール」男性に対しては Attaboy! 、女性には Attagirl!と声をかけます。
Brava! / Bravo!	(ブラーバー／ブラーボウ) * 演奏などを称賛するフレーズです。男性に対しては Bravo! 、女性には Brava!と声をかけます。
Bravissimo!	(ブラビッサモ) * 演奏などに対する最大級の称賛です。
Right-on!	(いいぞ、その調子)
Sweet!	(すばらしい!) * Wonderful! (すばらしい) とほぼ同じ意味で使います。
Way to go!	(その調子だ!) * スポーツ選手の好プレーなどに対して送る声援。
Whippee!	* これもスポーツイベントなどでの声援フレーズで、最高の歓喜を表す声。Wowee! / Whoo-hoo! / Woo-hoo! などもほぼ同じです。
Yay! Yeah!	(やったー、イエーイ) * これはすでに日本語にもなっていますね。* Yeah, baby! もほぼ同じです。



(19)和製英語を怖がる人 (意外と使える和製英語)

日本の空港に到着したネイティブを迎えに来ていた日本人ビジネスマン。無事ネイティブ氏に会うことができた日本人の A さんは、ネイティブに向かって、「さて、ここからはリムジンに乗りますからついてきてください」とのたまったのだそうです。

ネイティブはリムジンと聞いて、自分はそんなに厚遇されるはずはない、何かの間違いじゃないかと内心不安になってしまったのだそうです。しかし、A さんとネイティブ氏がリムジンバス乗り場まで来たとき、ネイティブ氏の不安は解決したのだそうです。A さんのいうリムジンが実は、豪華な大型乗用車のことではなく、バスだったからです。

さて、この話でネイティブ氏がどうして不安になってしまったのかわかりましたか？

日本では空港のリムジンといえば、空港から出発する大型のバスのことを指しますが、ネイティブ氏はリムジンと聞いて、豪華な大型車であると思ってしまったのです。

こんなふうな和製英語にまつわるコミュニケーションの失敗はとてもよく耳にしますね。読者のみなさんにも、そうそう、私もこんな間違いをしたことがあるという方も多いのではないかと思います。

私の周囲には、和製英語で間違いをしたくないので、カタカナ語になっている和製英語できるだけそのままの表現で使わないようにしている、という日本人さえいます。

しかし、それほど過敏になってしまっただけは、本来使えるはずの英語表現までも使えないことになってしまいますね。この章では、どれが使ってはいけない和製英語なのかをはっきりと知るこから始めて、さらには使え





ない和製英語を利用してボキャブラリーを増やす方法を紹介してみようと思います。

まずは、使えない和製英語180語を、実際に通用する英語に変換していくことにします。これから紹介するリストには代表的な使えない和製英語のほとんどが含まれていますから、このリストさえ頭に入れてしまえば、このほかのみなさんがご存知のカタカナ語のほとんどは英語として通用することになるはずですよ。ぜひこのリストを攻略して、カタカナ英語の達人になってください。

◆使えない和製英語と通じる英語

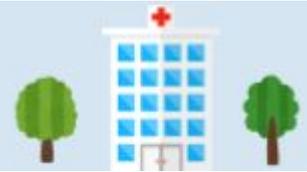
使えない和製英語	通じる英語
アパート	apartment house * apart というと「離れた」という意味だと勘違いされます。また、apartmenthouse の各戸を apartment と言います。
アフターサービス	warranty / support * support は日本語でも一般化してきましたね。warranty は「保証」です。
アポ	appointment * 「アポ」と言われても、ネイティブには何のことだかわかりませんので、appointment と正しく表現しましょう。
アメリカンコーヒー	weak coffee * 日本にしかない言葉ですね。weak coffee (弱い [薄い] コーヒー) と表現すればいいのです。
アルバイト	part-time job * アルバイトはドイツ語なので英語では通じません。
アンケート	questionnaire



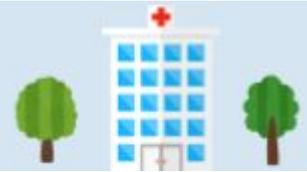
	<p>* 発音は「クエスチョネー（ル）」。 enquete はフランス語。</p>
イメージアップ	<p>improve one's image * improve one's image（自分のイメージを改善する）のように表現なければなりません。</p>
インターホン	<p>intercom * intercommunication system unit（内部コミュニケーションシステム装置）の略。</p>
インフラ	<p>infrastructure * 「インフラストラクチャー」とすれば大丈夫ですが、「インフラ」と略してはいけません。</p>
インフレ	<p>inflation * これも同様に省略不可です。</p>
インポ	<p>impotence * もうひとつこちらも省略不可。impotence（性的不全）と正しく表現してください。</p>
ウィルス	<p>virus * 英語では「ヴァイラス」と発音します。もちろんパソコンのウイルスも「ヴァイラス」です。</p>
ウォッカ	<p>Vodka <発音注意！> * 「ヴォドカ」のように発音するのが英語流です。綴り字に忠実に読めばいいのです。</p>
エアコン	<p>air conditioning * air conditioner とも言えます。ただし、どちらも冷房機のことだけを指し、暖房器具のほうは heater と言います。</p>
エネルギーッシュ	<p>energetic</p>
エンゲージリング	<p>engagement ring * -mentを省略してはいけません。ちなみに、</p>



	「結婚指輪」は wedding ring と言います。
エンスト	engine stall * stall は「立ち往生、失速」の意。
OL	female office staff * 「オフィスレディー」も完全な和製英語です。
オーダーメイド	custom-made
オートバイ	motorcycle * ついでですが「バイク」と言ってもダメです。「バイク」というと bicycle を短くした bike という単語だと思われれます。
オーバースロー	overhanded pitch * underhanded pitch とすれば、「アンダースロー」になります。
OB	graduate * graduate は「卒業生」ですね。
オーブントースター	toaster oven * 順序を逆にすれば正しい英語になります。
オープンカー	convertible
オールドミス	spinster
カメラマン	photographer * 「カメラマン」というとテレビや映画のカメラマンのことになります。
カンニング	cheating *** * cunning が「ずる賢い」という意味の形容詞。日本語の「カンニング」は英語では cheating (ずる、いかさま) と表現します。
ガードマン	security guard * 「安全警備員」と表現すればいいのです。



ガールハント	cruising * もともと「街の中を車でうろうろする」ことを cruising と言います。
ガソリン	gas / petrol * gasoline も間違いではありませんが gas のほうがふつうです。英国では petrol と言います。「ガソリンスタンド」もそれぞれ gas station / petrol station と表現。
ギャング	gangster
クラクション	horn * Klaxon (クラクソン) は商標名です。
クラシック	classical music
クレーム	complaint *** * クレームは「主張する、申し立てる、要求する」という意味の動詞なので、「不平不満」の意味にはなりません。
コストアップ	increase costs * 「コストを増加させる」と表現します。「コストダウン」は reduce cost (コストを減らす) でオーケー。
コンクール	contest / competition * concours はフランス語です。
コンセント	outlet *** * consent と言うと「同意」という意味だと勘違いされるでしょう。
コンビニ	convenience store * 略してしまうと通じません。
コンペ	competition * competition は「競技会、コンテスト」という意味。これも略してはいけません。



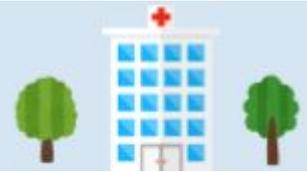
ゴールイン	finish * マラソンや短距離などのゴールインは finish と表現します。
ゴールデンアワー	prime time * prime は「最も重要な」という意味。
ゴルフコンペ	golf tournament
サイドビジネス	side job * 「ビジネス」ではなく「ジョブ」と表現しましょう。
サイン	autograph*** * 有名人のサインは autograph、ふつうの人の署名は signature と言います。
サラリーマン	company employee
シーズンオフ	off season * これも前後逆にすると正しくなる和製英語です。
シャープペンシル	mechanical pencil *** * 「尖った鉛筆」だと勘違いされます。
シュークリーム	cream puff***
Gジャン	denim jacket * 「デニム地のジャケット」と表現すればいいのです。
Gパン	jeans * ネイティブには「ジパング」と聞こえてしまうかもしれません。
ジェットコースター	roller coaster * roller は「くるくる回るもの」、coaster は「そり」。
スピードダウン	slow down



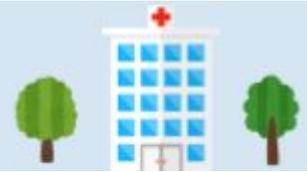
	<p>* 「スピードアップ」は speed up あるいは accelerate と表現。</p>
スピードボール	fast ball
ズボン	pants * trousers とも言えますが、ふつうは pants と言います。
セクハラ	sexual harassment * 縮めてしまうと通じません。harrasment は「嫌がらせ」。
セロテープ	scotch tape / sellotape * 米国では scotch tape という商標がそのまま名詞になっています。英国でも同じく sellotape という商標が名詞化しています。アメリカ人と話をするときはscotch tape と表現してください。
タオルケット	blanket * 綿や毛などが素材の厚手の布地を blanket と言います。
チアガール	cheerleader * 「応援のリーダー」と表現します。
チャック	zipper * fly とも言います。
テイクアウト	to go, eat out / take away 米語では to go あるいはeat out、英国では take away と表現します。take out も間違いではありませんが使用頻度は格段に下がります。
テーマ	theme * 英語では「シーム (θi:m)」と発音します。
テレビ	TV / television
テンキー	numeric keypad



	<p>* 数字を入力するので、「数値キー」と表現します。</p>
デッドボール	<p>hit by a pitch * 「投球に撃たれる、当たる」と表現します。</p>
デパート	<p>department store*** * これも省略してはいけません。</p>
トイレ	<p>bathroom / rest room * 英国では toilet でも通じますが、アメリカで toilet というと「便器」と言っているように聞こえます。</p>
トランプ	<p>cards 英語でtrumpというと「切り札、最後の手段」という意味になってしまう。「トランプ」という製品そのものは英語では単に cards とい、 「トランプ (のゲーム) をする」というときには play a card game あるいは play a game of cards となる。</p>
ドライ	<p>businesslike *** * 「ドライな人」を形容するときには businesslike (事務的な、ドライな) を使うのがいいでしょう。 I want to be his friend, but he's always so businesslike. (彼と友達になりたいんだけど、いつでもドライなんだよ)</p>
トレーニング・パンツ	<p>sweat pants * 上着のほうは sweat shirt、上下揃いなら sweat suit です。ちなみにtraining pants というと、赤ちゃんのおシッコトレーニング用のオムツだと思われてしまいます。</p>
ナイーヴ	<p>sensitive * naive というと、「世間知らずな、常識の</p>



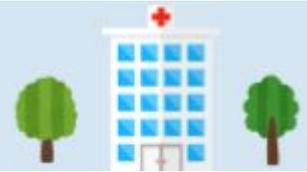
	ない」といった意味に受け取られてしまいます。
ナイター	night game * nighter でも通じますが、nighter は試合だけではなく、夜の会議など、何かを夜に行うときに使う一般的な用語。使用例は以下のとおり。 A. When is the meeting? (会議はいつだい?) B. It's a nighter. It starts at 7:00. (ナイターだよ。7時から始まるよ)
ナンバープレート	license plate * 英国では number plate と言います。
ニュース	news * 「ニュース」と発音すれば使ってもかまいません。
ネゴ	negotiation * 省略せずに「ネゴシエイション」と表現しましょう。
ノート・パソコン	laptop coputer / book computer * laptop は「膝置き(載せ)タイプの」という意味。
ノート	notebook * これは中学生にも浸透していますね。似ているものに notepad がありますが、こちらは日本で言う「レポート用紙」のようにひとつづりになったはぎ取り式のノートのこと。
ハイセンス	good taste * good taste で「好みが良い」の意。
ハンスト	hunger strike
パンティストッキ	pantyhose / tights



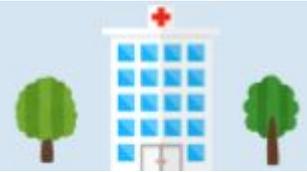
ング	* パンストなどと言うと、さらに通じなくなってしまう。
ハンドル	steering wheel * handle というと、「ドアの取っ手」のことになります。
バイキング	buffet style * 「バイキングレストラン」なら buffet style restaurant と表現します。
バカンス	vacation / holidays * 「バカンス」はフランス語です。
バックホーム	throw to the plate * 「ホームプレートに投げる」と表現。 「ホームプレート」は (home) plate あるいは home base です。
バックネット	backstop
バックミラー	rear-view mirror * 「後ろを見る鏡」と表現しましょう。
バリカン	hair clipper * 英語では hair clipper (髪刈り器) と言います。「爪切り」は nail clipper と言うのでいっしょに覚えておきましょう。
パソコン	PC * PC と言うのがふつうです。省略せずに personal computer と言ってもかまいません。
パトカー	police car, patrol car, squad car * どれもよく使われます。
パン	bread * 「パン」はもともとポルトガル語です。
パンク	flat tire*** * flat だけでも I have a flat. (パンクした) の



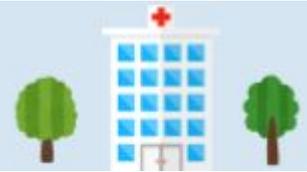
	ように使えます。
ヒアリング	listening *** * 「リスニングテストは」 listening comprehension test。 hearing test というと「聴力検査」のように聞こえます。
ビール	beer * 「ビア」のように発音します。
ビジネスホテル	economy hotel * 「価格の安いホテル」と言えばいいのです。
ビタミン	vitamin * 「ヴァイタミン」と発音します。
ビニール	plastic / vinyl * 「プラスチック」または「ヴァインル」と言います。「ペットボトル」はplastec bottle というのが一般的。
ビフテキ	steak * beefsteak と言ってもかまいません。
ビロード	velvet
ピーマン	green pepper * ピーマンは、フランス語の pimento (ピメント) が由来です。
ピント	focus * 「焦点」の意味の英語は focus です。
フォアボール	walk * 「歩き」と表現します。
フライドポテト	French fries * イギリスでは chips と呼びます。fish and chips (魚フライにフライドポテトを添えたもの) は有名ですね。



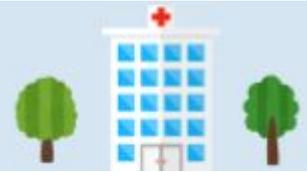
フリーサイズ	one-size-fits-all * 「1サイズでみんなにピッタリの」と表現します。
フリーダイヤル	toll-free number *** * toll-free で「料金が無料の」という意味。 -free には「~がない、~から自由の」という意味があります。smoke-free と言えば「禁煙の」という意味。
フルベース	bases full / base loaded***
フロント	reception desk / front desk * 「フロント」とだけ言うとホテルの外の正面だと思われます。
フロントガラス	windshield / windescreen * アメリカではwindshield、英国ではwindscreen と表現します。
プッシュホン	touch tone * 触ると音が出るのでこのように表現します。
プレイガイド	theater ticket agency
ヘルスセンター	recreation center ***
ベース・アップ	pay raise, raise, rise * rise は英国語での表現。
ベランダ	balcony * veranda は庭に接したポーチ。
ペンキ	paint
ペンション	a small hotel *** * pension というと「年金」のことと勘違いされてしまいます。
ペンフレンド	pen pal / pen friend



	<p>* pal は「友達、仲間」の意。英国では pen friend で通じます。</p>
ホッチキス	<p>stapler * 「ホッチキス」と発音すると、hotcha kiss (熱烈なディープキス) かと思われます。</p>
ホットカーペット	<p>electric carpet * 「電気カーペット」と表現します。</p>
ボールペン	<p>ball-point pen * 「ボールペンの替え芯」は refill と言います。</p>
ボディコン	<p>skin-tight dress * skin-tight で「ピチピチの、カラダにピッタリの」という意味になります。</p>
ボディチェック	<p>body search / frisk * go through a body search あるいは get frisked で「ボディチェックを受ける、所持品検査を受ける」という意味になります。</p>
ポケットベル	<p>pager / beeper * pageは「(人を)呼び出す」。デパートの呼び出しなどを paging と言います。beep は「ピーッ」という呼び出し音。</p>
ポスト	<p>mailbox * 各家庭の「郵便受け」は postbox と言います。</p>
マイペース	<p>own pace * ownは「自分自身の」という意味の形容詞。マイカーやマイブームなども同じく通じません。</p>
マジック	<p>magic marker</p>
マジックテープ	<p>Velcro * 商標名のまま Velcro と呼ばれています。</p>



マスコミ	media / press * mass media と表現できます。
マニキュア	nail polish *** * 「ツメの光沢剤」なのでこう呼ばれます。
マフラー	scarf
マンション	apartment / flat * mansionは「大邸宅」という意味になります。condo, condominium とも言えますが、apartment よりもやや豪華な感じがします。
マンネリ	routine * 「いつものお決まりの物事」を routine と言います。
ミキサー	blender *** * ブレンドする器具なので、こう呼びます。
ミシン	sewing machine * 「マシン」がなまったものですが通じません。
モーニングサービス	special breakfast*** * 「モーニングサービス」と言うと、教会の朝の礼拝だと勘違いされてしまいます。
ライトバン	station wagon ***
ライブハウス	rock club * live house だと「イキイキした家」のように聞こえます。
ラジカセ	radio cassette recorder
リサイクルショップ	secondhand store * secondhand は「中古の」という意味。
リムジン	highway bus * 英語で limousine と言えば「豪華な大型自



	動車」のこと。
レジ	cashier register, till
レンガ	brick
レンジ	stove * ガスレンジは「ストーヴ」と言います。電子レンジは microwave oven です。
レンタルビデオ	video rental * 「レンタルビデオ店」なら video rental shop です。
ロードショー	first-run * first-run film と言えば、「封切り映画」のこと。
ワイシャツ	dress shirt * 「ドレスシャツ」がワイシャツです。
ワープロ	word processor
ワンマン	dictator president * dictator は独裁者」、president は「社長」です。
ワンルームマンション	studio apartment, one-room apartment
ヴァージンロード	aisle * 教会の通路は aisle (通路) と表現します。ちなみに飛行機の通路側の座席は aisle seat と言います。



(20)英語の新聞、雑誌、本ばかりを一生懸命読む人

もちろん英語の新聞や雑誌を読むことは重要ですが、これは、口語会話についてはあまり役に立つとは言えません。

なぜかというと、新聞や雑誌に出てくる英語表現は非常に難解なものが多く、ネイティブはそのように難しい英語を使って日常会話をしたりしないからです。

新聞に出てくる英語をそのまま使って、会話をしようとする、とても不思議な話し方をするとネイティブたちに思われてしまうことになるでしょう。

ここでは少し難しい英語がどんなもので、シンプルな英語とはどんなものなのか比較して見ることにしましょう。上が難解な言い回しで、下がシンプルな会話調の文になっています。

くれぐれも上の表現は、実際のネイティブとの会話では使わないように気をつけてください。

<難解>

Considering the current situation, we must take action to prevent a drop in quality.

(現在の状況を鑑みてみると、われわれは品質の低下を回避するために手段を講じなければならない)

<シンプル>

We have to do something about quality.

(品質をどうにかしないとイケない)

<難解>

Mr. Tanaka is apparently considering the possibility of relocating to New York.

(田中氏はニューヨークへの転居の可能性を検討している模様だ)



<シンプル>

Mr. Tanaka might move to New York.

(田中さんはニューヨークに引っ越すかもしれない)

<難解>

According to unnamed sources, the year-end bonuses will be reduced by a considerable amount.

(情報筋によると年末のボーナスはかなりの数値で減額される様子だ)

<シンプル>

Someone said the year-end bonuses are going to get gut.

(年末のボーナスはカットされるって言ってたよ)

<難解>

We are now considering the possibility of canceling tomorrow's meeting.

(われわれは現在、明日の打ち合わせのキャンセルを検討中である)

<シンプル>

We might cancel tomorrow's meeting.

(明日の打ち合わせはキャンセルするかもしれない)

<教訓:新聞や雑誌の言い回しは、日常会話には役立たない>



(21) 自信のない英語を話さない人

ちゃんと通じると自信のある英語以外しゃべろうとしない人がいます。例えば、

Hello. (やあ)

Goodbye. (さようなら)

How are you? (元気ですか?)

I am fine, thank you. (元気ですよ。あなたは?)

Thank you. (ありがとう)

You're welcome. (どういたしまして)

といった中学レベルの表現なら、間違えることもありませんから、自信をもって話ができるものばかりでしょう。しかし、自分でそれほどはつきりと覚えていない表現を使ってみようとしなければ、英語の能力を実戦会話の中で伸ばしていくことがなかなか難しいことも知っておきましょう。

ネイティブの子ども達は、自分にもいまひとつわかっていない表現を物怖じせずにとんどん使います。

例えば、大人が使っているあいさつを小耳に挟んだときには、自分たちも同じこと場を使ってみようとトライするのです。

Howdy. (やあ)

Adios. (じゃあね)

Whazup? (最近どう?)



Not bad. (なかなかいいよ)

I owe you one. (ひとつ借りね)

などなど、自分でもいまひとつ意味のわからない言葉をどんどん使います。

大人たちのほうでは、彼らの言葉を聞いていて、もし間違いがあればその場でちゃんと訂正しようとして心がけています。

言葉というものはそういう試行錯誤のうちに、流暢になるものなので、これはとても自然な会話の習得法と言えるでしょう。

しかし、日本人の英語学習者の中に多くいる、語学潔癖性な人たちは、自分の中で自信のない表現を少しも使おうとしない場合があります。

しかし、すでに述べたように、言葉というものは誤用を繰り返しながら身につくものなのです。間違いをすればするほど、その人の英語力を伸ばすチャンスは増えていくことを彼らは忘れていません。本書の読者のみなさんには、失敗を恐れず、どんどん間違える勇気をもっていただきたいと思います。ある言葉を覚えたら、それを未知のフレーズにどんどん応用してほしいのです。

では、ここで少し、英語を話すときに簡単にできる、新しいチャレンジの仕方に触れておきましょう。

まず、みなさんは

I'm serious.

というフレーズの意味がわかるでしょうか？これは「真面目に話しているんです」、「私は真面目に話しているんです」と、自分の話が真剣なものであることを相手に伝える言い方です。

では、これに dead という単語をくっつけるとしたらどこにどう入れればいいでしょう。少し考えてみてください。この dead は実は形容詞ではなく、「非常に」という意味の副詞ですから、動詞の



前に入ればいいのです。そうすると、次のようになりますね。

I'm dead serious.

(超マジで言ってるんだよ)

繰り返しになりますが、dead は「死んだ」という意味ではなく、「非常に」という意味の副詞ですから、I'm dead serious. 全体では、「ぼくはホントに真剣なんだ」「超マジで言ってるんだ」といった意味合いになるのです。

このように、副詞などの修飾句は、以外と簡単に会話の中に応用が可能です。このdead serious というフレーズを覚えたら、I'm dead tired. (超、疲れた) のように、dead を別の形容詞の前にくっつけてみればいいのです。これが実戦の中でのチャレンジです。

みなさんのヒントにするために、いろいろなセンテンスのなかに簡単に応用し活かすことができる修飾語を、以下に少し紹介しておきます。

ぜひとも、これらのフレーズを応用して、自分に自信のない文をどんどん創作してみましょう。通じればよし通じずともネイティブが訂正してくれます。失敗は成功の母なのです。

◆いろいろな文に簡単に応用できる修飾語

big fat (あからさまな)

That's a big fat lie. (それは真っ赤なウソだ)

I think he's a big fat idiot. (あいつは大馬鹿者だと思うよ)

That meeting was a big fat waste of time.

(あの打ち合わせはホント時間の無駄づかいだ)

incredibly (信じられないほど)

This chicken is incredibly delicious.



(このチキン信じらんないくらいうまいよ)
I was incredibly lucky.
(信じらんないほどラッキーだった)
That was incredibly nice of you to say. (君がそう言ってくれるなんて信じられ
ないくらいうれしよ)
You are incredibly talented.
(君って信じられないほどの才能だね)

extra (さらに)

Be extra careful. (いつも以上に慎重にね)
Please be extra alert for fires. (火には十分注意して)
Try to be extra nice to Mr. Tanaka.
(田中さんにはほんとうによくしておいてね)

a-bunch (たくさん)

Thanks-a-bunch for coming.
(来てくれてホントありがとう)
I have a bunch of work to do.
(やらなきゃならない仕事山ほどあるんだ)
There's a bunch of books on the table.
(テーブルには本が山ほど載っている)

in the world (いったい全体)

Why in the world did you do that?
(いったい何でそんなことをした?)
What in the world can I do?
(いったいぼくに何ができると言うんだ?)



dirt (途方もなく)

That's dirt cheap. (それ、超安いな)

He is dirt poor. (あいつは極貧なんだよ)

<教訓: 自信のない言葉もどンドン話そう。それが英会話上達の近道だ>





(22) 間の取り方が下手な人

日本語でも、つなぎ言葉や、間合いを取るフレーズ、前置きのフレーズなどは、言葉と言葉、話と話の接着剤としてとても役に立ちます。

これは英語でも同じことで、ネイティブもそのあたりをちゃんとわきまえていて、いろいろな表現を言葉をつないだり、切り出したりする合図として使います。

ですから、このような言葉を覚えておくと、ネイティブがどんな類の事柄をこれから話そうとしているのかを知ることが容易になると同時に、その逆にこれから自分が何を話そうとしているのか、どんな気持ちで言葉を切り出そうとしているのかをネイティブに漠然と示すことが可能になるのです。

上手に言葉の間の取れることも英会話上達のひとつの重要なポイントだということですね。

この章では、ネイティブがよく使う前置きや、間合いのフレーズを少しだけ紹介しておきますから、ぜひとも会話の中で、自分の気持ちを上手に伝える手助けにしてください。

◆上手に間を取り、言葉をつなぐ表現のいろいろ

Well, ... (ええと、えっと)

文の最初につけると、なんとなくやわらかく物事を切り出しているように聞こえます。これからはなそうとすることをまだ少し考えている途中で、いまひとつ自分でも自信のない感じであるという印象を醸し出すことができます。



- Well, I 'm a little busy today.
(ええと、今日は少し忙しいもので)
- Well, I won't be able to go.
(えっと、私は行くことができません)
- Well, I have to leave now.
(ええと、そろそろお暇しなければなりません)

I'm afraid... (残念ですが、すみませんが、申し訳ありませんが)

I'm afraid... は、相手にとってよくない知らせをやわらげる効果のある表現です。

Your cat died. (あなたのネコは死にました) のように、相手にとって不幸な知らせをそのまま伝えるのはとても冷たい感じがしますから、そんな場合にはこの I'm afraid... を文頭につけて、I'm afraid your cat died. (残念なことですが、あなたのネコは死んでしまいました) のように表現するのです。

- I'm afraid I've decided to quit.
(すみませんが辞めることにしました)
- I'm afraid dinner isn't quite ready.
(申し訳ありませんが、夕食の準備はまだ整っていません)
- I'm afraid I'll be five minutes late.
(申し訳ありませんが5分遅れます)
- I'm afraid it's going to rain today.
(残念ですが、今日は雨になりそうです)

-ah (ええ、ああ、その、まあその)

単語ではなく単なる音で、日本語の「ああ」「ええ」「まあその」「んー」などのように、言葉と言葉の間を取るときに使います。日本語の「まあその」などは、言葉をどんなふうにつなぐべきか判断しかねているときによく使う言葉ですが、この英語の -ah にも同じような性質があります。



- ・ I'm afraid I-ah can't go to the party.
(残念ですが、ええ、私はパーティーには行けません)
- ・ That book you gave me-ah, I think I lost it.
(あなたから頂いた本ですが、その、なくしてしまったようなんです)
- ・ We-ah have to work late tonight.
(われわれは、ええ、今日残業しなければなりません)
- ・ I don't think your-ah presentation went very well.
(あなたのプレゼンテーションは、ええ、あまりうまくいったと思いません)

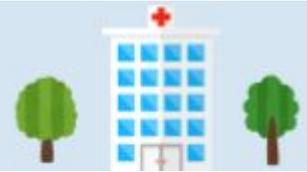
すでに紹介した Well とこの -ah とをいっしょにした Well-ah という言葉も、センテンスの調子をやわらげる働きがあります。

- ・ Well-ah, I'd better get going.
(ええ、私はもう行かないと)
- ・ Well-ah, I'll see you tomorrow.
(では、また明日会いましょう)
- ・ Well-ah, don't worry about it.
(ええ、それは心配ありませんよ)

okay (さて、では、じゃあ)

OkayもWellと同様に、文頭について語調をやわらかくします。

- ・ Well, I'm a little busy today.
(ええと、今日は少し忙しいもので)
- ・ Well, I won't be able to go.
(えっと、私は行くことができません)
- ・ Well, I have to leave now.
(ええと、そろそろお暇しなければなりません)
- ・ Okay, let's get back to work.
(それでは、仕事に戻りましょう)
- ・ Okay-ah, can you sit over here?
(じゃあ、あなたはこちらに座って)



また、Okay には文末について、平叙文を確認や、同意を求める疑問文に変える働きもありますので、併せて覚えておくといいでしょう。少し例を挙げておきます。

- ・ We need to finish this project by 3:00, okay?
(この仕事は3時までに終えなきゃだめだよ、いいかい?)
.....**確認**
- ・ Why don't we go to an Italian restaurant, okay?
(イタリアンレストランに行こうよ、どう?)
.....**同意を求める**
- ・ You can come early if you want, okay?
(もしそうしたら、明日早く来てもいいんだよ、わかる?)
.....**確認**

You know... (あのね、あのですね、あのさ)

You know... は、日本語の「あのね」に近い言葉です。You know what I'm trying to say. が短くなったもので、もともとは、「これから話そうとすること、なんだかわかる？」という意味ですが、ネイティブはほとんどもとの意味を意識せず、「あのですね」「あのね」「わかる?」「ええと」といった意味合いで、語調をやわらげたり、言葉をつないだりするために使います。

このフレーズを非常にたくさん使うネイティブもいますが、これはその人の英語力がとても低い感じがします。あまりにもこの You know... を多用するのはお勧めしませんが、会話の途中で時折 You know... を挿入するのはとても自然で会話上手な感じがします。

- ・ You know, I'm thinking about starting my own company.
(あのね、ぼく、自分の会社を始めようと思っているんだ)
- ・ You know, I don't think that tie matches your suit.
(あのさ、君のネクタイとスーツ合っていないと思うんだよね)
- ・ You know, why don't we meet at 7:00 tomorrow?



- (あの、明日は7時に会いませんか?)
- ・ I talked to, you know, my friend, the lawyer.
(話したんですよ、あの、弁護士の友人と)
 - ・ If it rains, we'll have to, you know, cancel the party.
(もし雨が降ったらね、パーティーはキャンセルしなきゃならないでしょうね)

kind of (やや、ちょっと)

日本語でも「今日はちょっと忙しいんです」のように言いますが、このちょっとに近い言葉が kind of (やや、ある種、ちょっと) です。

例えば、I'm busy today. (今日は忙しいんです) というより、I'm kind of busy today. (今日はちょっと忙しいんです) というほうがやわらかい口調になります。

また、「カインド・オブ」とハッキリ言うのではなく、「カンダァ」のように2語を1語のようにまとめて、曖昧な感じで発音します。

- ・ I kind of have to be at the airport at 6:00.
(ちょっと6時に空港に行かなきゃならないんで)
- ・ It's going to be kind of difficult.
(それはちょっと難しそうです)
- ・ I'm kind of out of time. (ちょっと時間がないんです)

actually... (実は)

actually を文頭につけると、相手の予想を裏切って、ネガティブな事を発言しようとしていることの合図になります。

日本語の「実は、実際には」に近いニュアンスの言葉が、この actually なのです。

- ・ Actually, I have to leave right now.
(実は、すぐに出かけなきゃならないんです)
- ・ Actually, I don't have any time today.



(実は、今日は全然時間がないんです)
・ Actually, I don't like pizza.
(実は、ピザは好きではないのです)

<教訓:間も取り方が下手な人は、気持ちの伝わる会話ができない。上手に間を取る言い回しを覚えよう>





(23) ひとつの日本語の英訳をひとつしか覚えられない人

重要な打ち合わせの最中に、突然ネイティブが

Excuse me, I gott a go.

という発言をしました。あなたはそのときどうしますか？

重要な会議の最中に「行かなきゃならないのです」と、突然退席すると言われたのでカンカンになってしまうのでしょうか？

しかし、実はここは起こる場面ではないのです。なぜかと言えば、この I gottago. というフレーズは「行かなければならない」という単純な意味ではなく、「トイレに行かなければならない」という意味だからです。

いかがですか？ 英語のセンテンスは思いのほか一筋縄ではいかないものだということがわかりいただけるでしょう。

この例のように文字どおりには解釈できない表現というものが英語にはとてもたくさんあるのです。このことはすでに「素直な人は英語ができない」の章でも少し取りあげたことでしたね。英語は文字どおりの意味にならないことが多いので、状況によって意味を判断しなければならない、というのが第●●章の教訓でした。

ここでは、少し見方を変えて、表現のバリエーションを覚えることで、この問題を解決することにしましょう。

もしこの逸話の人物が「トイレに行く」という表現をいくつも知っていて、その中のひとつに I gotta go. が含まれていたとすれば、このお話しのような失敗談は起こらなかったはずなのです。

ですから、みなさんもある日本語に相当する英語表現を、ひとつだけ覚えるのではなく、複数覚えるように、に頃から心がけておきましょう。トイレに行くという言い方ひとつをとっても、



- | |
|--|
| 1. I have go to the bathroom. |
| 2. I have to use the little boy's (little girl's) room. |
| 3. Mother nature is calling. |
| 4. I need to powder my nose. (女性のみ) |
| 5. I need a bathroom break. |
| 6. I gotta take a leak. (男性のみ) |
| 7. I need to go to the John. (男性のみ) |
| 8. I gotta go. |
| 9. I can't hold it any longer. |
| 10. If I don't go to the bathroom, my teeth are going to start floating. |

のようにさまざまなバリエーションがあるのです。

ひとつの日本語に相当する英語をいくつもいっしょに覚えるのは、もちろん大変ではありますが、そういった学習から、英語の中の思わぬニュアンスや英単語の語感に対する感覚が養われていくのです。労を厭わず、たくさんの英語を覚える努力を行いましょう。

ここでは、まずひとつの日本語に対して2つの英訳をあげてみますので、まずは、それらを比較しながらいっしょに覚えてみてはどうでしょう。

◆ひとつの日本語に対する英語をいくつも覚えよう

雨が上がる

- | |
|--|
| 1. It's not raining anymore.
2. It's stopped raining. |
|--|



* 1. の文は「もはや雨が降っていない」、2 番目は 「雨がやむ」と表現していますね。

予定を変える

1. I'm going to have to change my schedule.
2. I'll reschedule.

* change one's schedule も reschedule も「予定を変更する」という意味です。

コーヒーをいれる

1. Would you like some coffee?
2. How about some coffee?

* 1. は「コーヒーはいかが?」、2. は「コーヒーはどう?」が直訳。

風邪がうつる

1. I got a cold from my friend.
2. My friend gave me a cold.

* get a cold from は「～に風邪をもらう」、give someone a cold は「風邪を～にうつす」。

信頼を失う

1. I lost my trust in him.
2. I don't trust him anymore.



* lose trust in... は「～への信用を失う」、trust someone anymore は「もはや～を信じていない」。

動くな！

1. Don't move!
2. Freeze!

* Freeze!は直訳すると「凍りつけ」。転じて「動くな！」という意味で使われます。

気持ちが沈む

1. I'm depressed.
2. I'm feeling blue.

* depressed は「意気消沈した」という意味の形容詞。feel blue は「気が滅入る」という意味の熟語。

電話を入れる

1. Why don't you call him?
2. Why don't you ring him up?

* call someone も ring someone up も、どちらも「～に電話をかける」という意味。

頭が痛む。

1. I have a headache.
2. My head aches.



* 1. は「私は頭痛を持っている」が直訳。2. のほうは「私の頭が痛む」。

急かす

1. Don't rush me.
2. Don't push me.

* rush は「急かす」。push にも「急かす」の意がある。

納得が行く

1. That's reasonable.
2. That makes sense.

* reasonable は「理にかなった」という意味の形容詞。make sense は「うなずける、納得できる」という意味の熟語ですね。

電車で行く

1. Let's go by train.
2. Let's take the train.

* go by train は「電車で行く」、take the train は「電車に乗る」。

旧友に会う

1. I met an old friend.
2. I ran across an old friend.

* run across は「偶然出会う」の意。



(24) 異文化に鈍感な人①

あるアメリカ人が、来日後まもなく、有名英会話スクールで子ども達を相手に英会話を教え始めたときの話です。ある日彼女は子ども達に次のようにたずねたのだそうです。

How many fingers do you have?
(みなさんの指は何本ありますか?)

この質問を子ども達は、手の指が10本で、足の指が10本だと考えたので、一斉に

Twenty. (20本)

と大きな声で返事をしました。

実はアメリカ人は finger は何本と聞かれたときには20本とは答えないのです。賢明なる読者諸氏は正解がわかりますか?

正解は10本です。英語では「足の指」は finger ではなく toe と言います。finger というのはあくまでも手の指に限った言い方なのです。

さらに、ネイティブの中には、正解は10本ではなく8本という人もいます。手の親指だけは、そのほかの指のように ~finger とは言わず thumb と呼びますから、finger は8本だと言っても間違いではないのです。

ちなみに順に手の指の呼び名を紹介しておくと、親指だけは thumb finger とは言わず、thumb、その他の指は、人差し指が index finger、中指が middle finger、薬指が ring finger、小指が little finger と呼ばれます。





親指を除いてすべてに finger という単語がついていますね。ですから親指以外をfinger と考え、親指は finger ではないという人もいるわけです。

このように、文化や常識というものは国や地域によってさまざまなものです。指の呼び方ひとつをとってもこんなに考え方が違うわけですから、ほかにもいろんな文化による違いがあるのです。自国の文化以外に興味のない人は、異文化格差の最中で、思わぬ勘違いやコミュニケーションミスを犯してしまうことにもなりかねませんね。

特に外国語を使ってコミュニケーションをとりたいと考えているみなさんは、自分の文化だけではなく、相手の国の文化や習慣、考え方などが自国のものとどうことなっているのかを知っておくことは、とても大事なことなのです。

ここでは、少し、日本語と英語の間の文化格差が言葉に表れている例を取りあげてみます。みなさんの常識が英語では非常識になるものばかりですから、ぜひともしっかりと覚えておきましょう。

◆文化の違いが言葉に表れた仰天例

●兄弟姉妹の数は日本語と英語では異なってしまう

英語では「何人兄弟ですか」とたずねるとき、

How many brothers and sisters do you have?
(兄弟は何人ですか?)

と表現します。この質問が曲者なのですが、英語では、自分以外の兄弟の数を答えなければなりません。要するに兄弟姉妹には自分の数を含まずに答えるわけです。自分と弟しかいないのなら、日本人は「ふたり兄弟です」と返事をするところですが、ネイティブの場合、I have one. (ひとりです) と返事をすることになるのです。



●日本語の○と×は、ネイティブには通じない

次ぼ文の後ろに記号がついていますが、これはどういう意味でしょう。

Will you come to the party? X

日本人はこれを見て、記号を書いた人物はパーティーに出席しないものと考えてしまいますが、たぶんネイティブはそうは考えないでしょう。ネイティブは○や×を「オーケー」「や」「ノー」という返事に使わないのです。

日本では×は「ノー」、○は「イエス」の意味だと決まっていますが、ネイティブスピーカーが×記号を見ると、チェックマークのvに見えてしまいます。英語ではテストの採点のとき正解であればチェックマークを使いますから、ネイティブにとってこの×記号は「イエス、オーケー」という意味に受け取られかねないものなのです。ちなみにネイティブは日本語の○記号を見ると、数字のゼロと勘違いしてしまうかもしれません。ネイティブにとって日本の○や×の記号はとてもまっぎらわしいものなのです。

では、ネイティブは先ほどの招待状の記入欄にはどのように返事を書き込むのでしょうか？

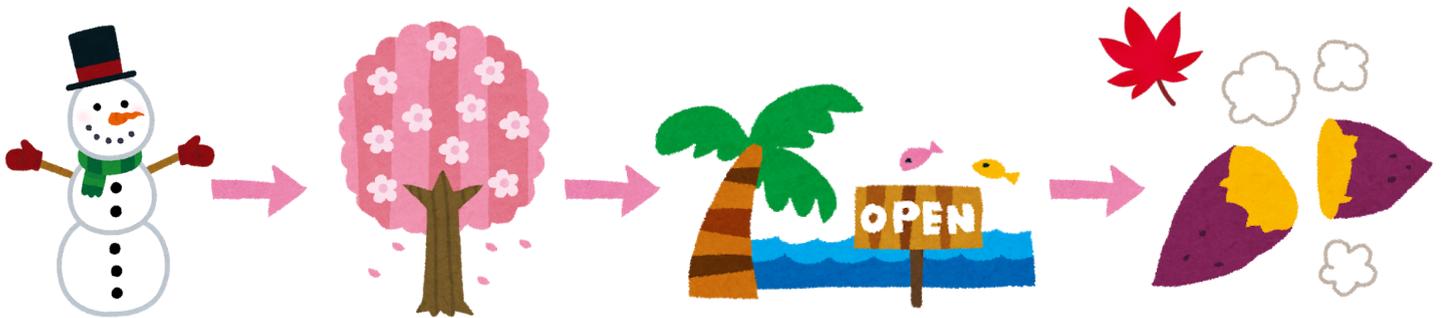
パーティーに参加するのなら、ネイティブは OK あるいは YES と書き込みます。逆に参加しないつもりなら NO と記入するのがふつうです。

ちなみに、日本人はよく両手で、○や×を作って遠くの人に合図を送りますが、これもネイティブにはちがった意味に受け取られません。○だとバレリーナの真似をしているように見えますし、×のほうは何かから隠れて潜んでいるように見えてしまいます。



英語では春夏秋冬の順に季節を言わない！？

日本語では四季を順番に並べて言うとき、「春夏秋冬」の順に表現しますが、英語では冬からスタートして、winter, spring, summer, fallのように表現します。



夏に登場しない幽霊！？

日本で幽霊やお化けは夏に出てくるものと相場が決まっていますが、英語では違います。英語では幽霊の季節は、ハロウィン（10月31日）の季節である秋なのです。

いかがでしたか、ここで取りあげた日本語と英語の違いは、単に言葉の上の違いではありません。文化の違いが言葉や表現の違いとなって現れているのです。

言葉話すということは、自ずと文化の違いについても言及していくことであるということ、いつも念頭に置いて、お互いの違いを意識しながら会話を行うことが、英会話上達のもうひとつの重要な要素であることがわかりただけのことと思います。

日本とアメリカあるいは英国との文化の違いを、事ある毎に意識しながら会話の勉強を続けていくことは、英語の習得の上でとても重要なことなのです。

<教訓:言葉には文化が表れる。異文化理解は英語上達の重要なカギだ>



(25) 異文化に鈍感な人②

異文化に鈍感な人は礼を失してしまう

英語なら何でも言いと思っている人といったタイトルでしょうか？いろいろな本にいろんな英語が乗っているが、すべてを鵜呑みにしてしまうのはダメ。失礼になったり、ていねいすぎたりすることもあるのです。という感じの流れで、上品下品の中味が使えそうですね。(SOUNDS GOOD)

日本人男性の A さんが、ジョイントベンチャーの件を話し合いに、とあるアメリカの企業まで出かけたときの話です。

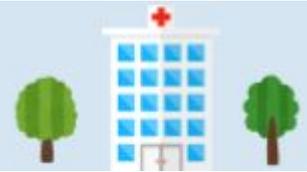
女性社長との打ち合わせの折、自分が紳士であることを体現しようとして、ミーティングルームのドアを自分の手で押さえながら、どうぞお先にという身振りで、Ladies first. (レディーファーストです) と言ったのだそうです。しかし、こう言われた女性社長、喜ぶ代わりになんだか気分を害してしまった様子でした。そしてその翌日、この女性社長は、日本とアメリカの文化の違いの大きさを実感したという理由でジョイントベンチャーの件を白紙に戻してしまったという話です。



女性社長が文化の違いを思い知ったのは、A さんの態度だったのだそうですが、いったい、A さんの態度のどこがいけなかったのでしょうか？

実はアメリカのビジネスでは、男女を差別的に扱うこと自体タブーなのです。そのことを知らなかった A さんが Ladies first. などと時代錯誤なことを言ってしまったことで、この女性社長は日本とアメリカの企業文化のギャップの大きさを実感したのだそうです。

また、この女性社長は A さんが差し出した会社案内にも驚かされました。その会社案内には、企業の社員数が印刷されていたのですが、そこには、男性社員 250 名、女性社員 75 名と載っていたからです。



この数字を見れば日本企業が男女の雇用を均等なものともみなしていないことが一目瞭然だったからです。

いかがでしょうか、このように相手国の文化や習慣、マナーを知らないばかりに失敗してしまった例は枚挙に暇がありません。

前章では異文化の違いで生ずる誤解を取りあげましたが、この章では、異文化の違いが失礼な場面を生んでしまう場合を少し取りあげておきます。

いずれにしても少しでも相手の国の文化を多く理解することが、英語でのコミュニケーションにはとても重要なことなのです。

会社では girl という言葉は使ってはいけない

企業の社会の中では、男性や女性に言及する言葉も避けるようにしなければなりません。特に女性社員について She's a nice girl (彼女はいい子なんです) などという言葉は避け、きちんと person (人物) という言葉を使わなければなりません。boy や girl という言葉は、成人の男女について用いるべきではありませんので、もしこれらの言葉を敢えて使う人がいたら、その人とても強い偏見に満ちた人物だと受け取られても仕方ありません。

年輩の社員を老人呼ばわりしないこと

もうひとつ差別についてつけ加えると、年齢によって社員を区別するのもよくないことだと考えられています。

例えば、We have several old people working for us. (弊社では、老人もいくらか雇用しています) という表現も差別的だと受け取られてしまいます。old people (老人)、decrepit (よぼよぼの; 老いぼれた)、senile (高齢の; 弱った) といった老齢を協調するような表現は、極力避けるように心がけてください。

最初の例なら、We have several older people working for us. (弊社では、年輩の方もいくらか雇用しています) のように older people という表現を知っておくべきなのです。



パーティーなどの社交の場では名刺交換はしない

日本人はパーティーの席でもしばしば名刺交換を行います。しかし、欧米でのパーティーでは、相手があなたの名刺を欲しいと願い出てきた場合や、話題がビジネスのことに触れよほど意気投合したりしたとき以外には名刺を渡すのは差し控えましょう。

また、日本のパーティーではよく見受けられる光景ですが、名刺をだれかれ構わずばらまくのはもってのほかです。欧米人には、名刺というものは営業ツールだという感覚がありますから、パーティーの席で名刺を配って歩くのを見ると、なんだか保険の営業員がパーティーに混じっているような感じがしてしまいます。がめつく下品な人物だとみなされかねませんから、十分に注意しましょう。

欧米には自分のネットワークを広げるための Network Party というものが催されることがありますが、このパーティーの席での名刺交換はその限りではありません。

重役には名刺は求めない

もうひとつ名刺に関するマナーですが、ビジネスの場であっても、CEO など相手企業の重役に対して自ら名刺を差し出すのも避けるべきです。

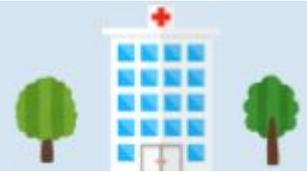
相手のほうから名刺を要求してくるか、第三者からきちんと紹介されるまで待つのが礼儀だと心得ておきましょう。ちなみに、部長クラスまでくらいなら、自分のほうから名刺を差し出しても失礼には当たらないと考えておくとよいでしょう。

禁忌表現を当然のように使ってはいけない

God damn it! (ちくしょう)、Shit! (くそー) のような禁忌表現を、CMなど日本のマスメディアではとてもよく見かけ、また耳にします。

しかし、これをそのままネイティブがいつも口にしている言葉だと考えてしまうと大変なことになります。

damn や hell あるいは Jesus、shit などの言葉は、とても下品な言葉だとされていて、ふつうのネイティブはあまり使わないものな



のです。特に信心深い人たちの前でこのような言葉を使うのは本当によくないことであることを覚えておいたほうがいいでしょう。

これらの言葉のほとんどは、怒りや驚きを表すときの言葉ですが、そのようなときネイティブは、これらの禁忌表現を避けるために、少しやわらかくしたボキャブラリーと差し替えて表現するのがふつうです。

少し禁忌表現をやわらかくした例を挙げておきますので、参考にしてください。

禁忌表現	God damn it! (ちくしょう! しまった!)
代替表現	Gosh darn it!
禁忌表現	Damn! (ちくしょう)
代替表現	Darn! Dang!
禁忌表現	Jesus Christ! (何てことだ!)
代替表現	Jeez! Gee wiz!
禁忌表現	Shit! (ちくしょう!)
代替表現	Shoot!

アメリカ人にはお酌をしてはいけない

日本人はよく相手と差しつ差されつといった具合に、ビールなどを注ぎあって飲む習慣がありますが、アメリカ人はそのような飲み方をしません。アメリカでは、自分の酒は自分が作るのが普通ですから、もし日本人がアメリカ人に向かって、どうぞとお酒を勧めたら、相手は「いったい何でそんなことをするの? 自分のことは自分でやるよ」といった気持ちを抱くことでしょう。アメリカ人は、自分の酒を他人に注いでもらうなどという意識を毛頭持ち合わせていないのです。

また、女性のお酌についても同様です。もちろんその手の商売の女性は男性にお酌をすることはありますが、それ以外では、見かけ



ることはありません。男性にしても、女性にしても、相手にしきりに酒を勧めていると、泥酔させて何かしようとたくらんでいるのではないかと勘ぐられてしまうこともあるかもしれません。自分の酒は自分で注ぐ、これがアメリカ流の飲み方なのです。

紙面の都合で、このくらいにとどめておきますが、ここで取りあげた例のように、自分の国ではふつうでも、それが相手の国では非常識である場合はたくさんあります。

本書の読者のみなさんは、ぜひ異文化について熟知し、上手なコミュニケーションができる人を目指してください。

<教訓:異文化に鈍感な人は礼を失してしまう。相手の国の習慣や文化を身につけなければ重大な失敗も起こり得る>





(26) 異文化に鈍感な人③

日本にはたくさんのことわざがあり、それらを会話の中に活かすことで時に機転の効いた、また時には実感のこもった会話ができます。これは英語でも同じで、ネイティブたちも英語のことわざや金言を会話の中に活かすことで、日常会話をウイットに富んだものにしていきます。

英語上手になろうとするみなさんは、日本のことわざだけでなく、英語でよく使われることわざや金言の基本的な知識も身につけておかなければならないということですね。これも相手の国の文化を知ることのひとつですが、ここで取りあげることわざや金言に限らず、さらに多くの欧米の文化を吸収して、英会話の達人を目指してください。

では、日常会話の中にことわざや金言が活かされている例を見ておきましょう。

◆日常会話の中のことわざ・金言

The cat is out of the bag. (秘密がばれた)

「ネコが袋から飛び出した」というのが直訳です。昔イギリスでブタを袋に入れて売買する習慣がありましたが、ブタの代わりにネコを入れて相手をだますこともありました。そのネコが飛び出すということから、うそがばれるという意味で使われるようになったのです。

<会話例>

A: Are you going to be the next vice-president?

B: How do you know?

A: Everyone knows. The cat is out of the bag.

<日本語訳>

A: あなたが次の副社長になるの？

B: なぜ知ってるんだい？

A: みんな知ってるわよ。秘密は漏れてるわ。



No news is good news. (便りのないのはよい便り)

これは日本でもよく知られたことわざですね。no news は「便りがない」ということ。good news は読んで字のごとく「よい知らせ、便り」です。

<会話例>

A: Did Alice get to New York all right?

B: I guess. She left on Monday and I haven't heard anything yet.

A: No news is good news.

<日本語訳>

A: アリスはニューヨークに無事に着いたの？

B: たぶんね。月曜に出発したんだけど、まだなにも連絡がないんだ。

A: 便りのないのはよい便りよ。

I was not born yesterday. (昨日生まれた訳じゃない)

「わたしは昨日生まれたのではない」が直訳。きのう生まれた赤ん坊ではあるまいし、そんなことは百も承知だ、やすやすとだまされるほどうぶじゃない、といったニュアンスで使われます。

<会話例>

A: Why don't you buy my motorcycle? I'll sell it to you for \$2,500.

B: I wasn't born yesterday. It isn't worth \$1,000.

<日本語訳>

A: ぼくのバイクを買ったら？ 2,500 ドルでいいよ。

B: やすやすと騙されるほどばかじゃないよ。そんなの1,000ドルの価値もないじゃないか。



Even Homer sometimes nods. (弘法にも筆の誤り)

ホメロスの詩の中にも、時に机の上で居眠りをしていたのではないかと思えるようなつまらない詩句があることから、非常に上手な人もたまには失敗するという意味で使われます。同様のものでは、Even monkeys fall from trees. (さるも木から落ちる) も有名です。

<会話例>

A: Can you believe Alice did such a stupid thing?

B: I can't. She's such a perfectionist.

A: Even Homer sometimes nods.

<日本語訳>

A: アリスがこんなバカなことをしたなんて信じられる?

B: 信じられないわ。彼女ほどの完璧主義者が。

A: 弘法にも筆の誤りだね。

Don't cry over spilled milk. (覆水盆に返らず)

Spill は「こぼす；まき散らす」。「こぼれたミルクのことを嘆いてはいけない」といった直訳になります。

<会話例>

A: What's the matter?

B: I failed the test because I didn't study.

A: Don't cry over spilled milk. Just study for the next test.

<日本語訳>

A: どうしたの?

B: 勉強しなかったからテストに落ちちゃったんだ。

A: 終わったことをくよくよ悩んでてもしょうがないわ。次のテストをがんばればいいのよ。



●YES と NO どっちがどっち？ ＜コラム＞

Yes? No?

日本語と英語とでは、イエスとノーの使い方が逆になることがあります。日本語と英語の構造の違い、そして日本人と欧米人の発想の違いがその原因です。まずは、会話例を一つ見てみましょう。（登場人物は A がネイティブ、B が日本人です）

A: My money is gone. Do you know where it went?
B: I don't know. Didn't you put it in your purse?
A: I put it on this table. So, you didn't steal my money?
B: Yes.
A: That's what I thought. Give me back my money!

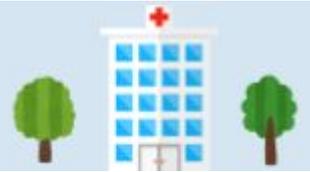
日本語訳

A: わたしのお金がないわ。どこにいったか知ってる？
B: 知りません。お財布に入れなかったんですか？
A: このテーブルに置いたのよ。じゃあ、あなたが盗んだんじゃないのね？
B: はい。
A: やっぱり。返してちょうだい！

お金を盗んでもいないのに、相手に完全に誤解されてしまいました。さて、何が悪かったのでしょうか？

So, you didn't steal my money?（じゃあ、あなたが盗んだんじゃないのね？）と言われた場合、盗んでいないのであれば、No, I didn't.（いいえ、盗んでません）といった具合に 'No' で答えなければなりません。

しかし、日本語で考えた場合は、「盗まなかったでしょ？」と聞かれれば「はい、盗んでません」と 'Yes' で答えるのが普通です。この習慣が身についているために、このような状況では頭の切り替



えがうまくできずに、つい 'Yes.' と答えてしまうのです。これで相手は完璧に誤解してしまいます。

こういった誤解を招かないためにも、英語で話しているときには、日本的な発想はできるだけ排除しなければなりません。

YESは肯定、NOは否定。英語ではこれを徹底しなければならぬのです。英語では「はい、していません」なんて文は絶対にありえないのです。

●読解力のつくリーディング法 ＜コラム＞



読解力をつけたいのなら、リーディングの量は多ければ多いほどよいのは事実です。

たくさんのリーディングしているうちに、知らず知らずのうちにボキャブラリーが増えていく。そんな学習が理想です。

リーディングするときは、知らない単語にマルをつけるようにしましょう。そして、後から気になる単語だけを辞書で引いて調べるのです。気にならないような単語は、調べずに放っておいてもかまいません。なぜなら、気にならないような単語は、調べたところで覚えられないからです。

逆に、ずっと気になっていた単語は、意味を知ったときに「なるほど！」と思えるからよく覚えられます。また、同じ単語に何度もマルをつけ続けているうちに、調べなくても意味がなんとなくわかってくることもよくあります。

英語を後ろから訳す悪い癖がついている人も、日本人にはかなり多いようです。

英語と日本語の間には構造の面で大きな違いがありますから、きちんとした日本語に翻訳することが目的であれば、後ろから訳すことが必要なときも確かにあります。

しかし、読んで理解することが目的であれば、わざわざ後ろから訳す必要などどこにもありません。英語を書いてあるままの順序で、頭からフレーズごとに意味をとっていくように心がけましょう。

●興味のあることを英語で読もう



<コラム>

英語のリーディングを辛いものだとはじめから決めてかかっている人も多いことでしょう。しかし、読書好きの人なら、英語の文章を読むのもきっと好きになれるはずなのです。

本来、リーディングの目的は、情報を得ることにあります。英文を理解することが目的ではありません。日本語で書かれた本を読む感覚で、英語の本も気軽に手にとってみましょう。英語のリーディングを楽しむためには、どこかで英語の勉強をしているということを忘れる必要があるのです。それに、楽しみながら学んだほうが、英語もずっと身につくのです。

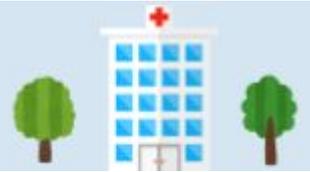
まずは自分に興味のある内容のものや、得意分野のものを選んで読むようにしましょう。背景的事情がわかっているものであれば、英語だとしてもずいぶんと読むのが楽になります。そして、内容が面白ければ、早く先を読みたいとも思えるのです。そうなればしめたもの。英語が知りたい情報を得るための道具になったのです。

料理好きの人ならレシピ本がおすすめです。レシピで用いられる英語表現は決まった言い回しが多く、そういった表現に慣れてしまえば比較的楽に読みこなすことができます。英語が覚えられ、料理のレパートリーが増えとなれば、まさに一石二鳥の勉強法です。一度洋書売り場をのぞいてみましょう。

今ではインターネットを使って、いろいろなトピックの読み物が簡単に探せます。いろいろと見てまわって、お気に入りの英語サイトを見つけましょう。



●映画から英語表現を盗もう



<コラム>

同じ映画を何度も繰り返し観てみましょう。誰にだって、何度観ても飽きないお気に入りの映画が一本くらいはあるはずです。自分の好きなもの、思い入れのあるもののほうが英語の勉強ははかどります。

そして、観るときには始めから最後まで英語をすべて聴き取ろうなんて思わないことです。まずは自分のお気に入りのシーンを探して、その部分だけを繰り返し観てみましょう。出会いのシーン、ラブシーン、別れのシーン、喧嘩のシーン...

それらのシーンで使われている表現を、映像に合わせて実際に口に出してみましょう。その際、イントネーションや間のとり方まで真似ることが大切です。TPOに合った英語表現を無理せず少しずつ覚えたいなら、場面を自由に選択できる映画は最高の教材になるのです。

最近では、インターネットなどを通じて映画の脚本が簡単に入手できます。できれば脚本も手に入れて、お気に入りの映画を徹底的に攻略してしまいましょう。

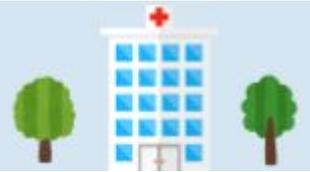
憧れている俳優が出ている映画なら、なおさらいいでしょう。「あの人のような英語が話したい」といった憧れがモチベーションとなってプラスに働きます。そこで集中力にも大きな差が生まれるのです。

あなたなら誰の英語を真似てみたいですか？ "You talk like Julia Roberts." 「あなたの英語ってジュリア・ロバーツの話し方に似てるね」なんてネイティブの友人から言われる日が来ることを信じて勉強しましょう。



●日本映画で

覚えるネイ



ティブフレーズ ＜コラム＞

映画の字幕と聞くと、英語の映画についている日本語の字幕を想像されると思いますが、その逆も当然存在しています。数はそれほど多くありませんが、日本の映画が英語の字幕つきで海外で放映されたり、ビデオになって売り出されています。

日本語の映画を英語の字幕で観ることで、知っていそうでなかなかすぐには思いつかないような英語表現がたくさん覚えられます。

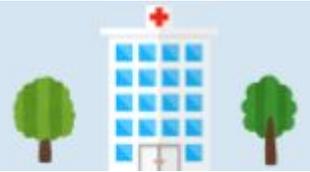
画面で話されている言葉が、ほぼそのまま英語の字幕で読めるわけですから、TPOに応じたいろいろな英語表現を覚えるにはうってつけです。映画の内容が面白ければ、楽しみながら英語が学べますし、日本語を聞くわけですから、英語のリスニングで悩まされることもありません。

慣れないうちは、初めからすべての字幕を読もうとはせずに、気になる表現が出てきたときにだけ一時停止して、字幕を読むようにしましょう。徐々にその回数を増やしていけばいいのです。

英語の映画を観て英語表現を学びたければリスニング力が必要になりますが、こちらはどちらかといえばある程度のリーディング力が必要になります。字幕が切り替わるスピードも速いので、ストップボタンを多用しながら、自分なりに工夫して観るようにしましょう。これは！と思う表現が出てきたらメモしておいて、自分だけの表現集を作ってみるのもよい考えです。

海外へ行く機会があったら、ぜひ一度ビデオショップの外国映画コーナーを覗いてみてください。日本映画が必ず何本かは置いてあるはずです。選ぶのに悩むほどの種類は揃っていないと思いますが、この際あまり選り好みせずに、少しでも英語学習に役立つような内容のものを選びましょう。





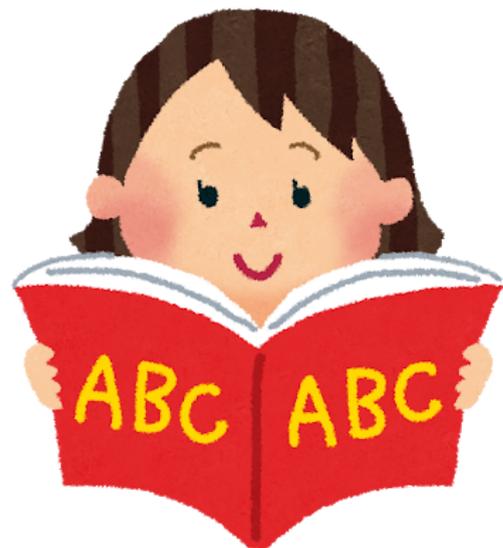
●読めばわかるのに、聞くと分からない ＜コラム＞

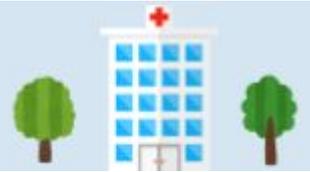
読めばわかる簡単な英文も、リスニングとなるととたんに訳がわからなくなってしまうという人も多いことでしょう。ある程度のスピードになると、単語同士が連結して一単語のように聞こえたり、はっきりと発音しない箇所が出てきたりするため、そういった音の変化に慣れていないとなかなか聴き取ることはできません。

例えば、You're an excellent cook.という文を聞いたとしましょう。ちなみに意味は「料理が上手ですね」で、読めば簡単にわかる文です。しかしこれが自然な速度で話されると、Your eggs are not cooked.（卵はまだ生ですよ）のように聞こえたりします。

こういった音の変化に対応できるようにするためには、英語独特の発音のルールを知ることに加え、普段から生の英語をできるだけたくさん聴き、フレーズ単位、センテンス単位といったできるだけ大きな枠で意味をとる練習が必要になります。

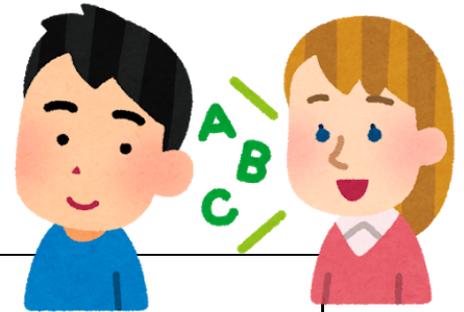
文は一つひとつの単語がつながってできるのではなく、フレーズの組み合わせによって完成するものです。そのため、変化して聞こえたり、消えて聞こえない箇所が若干あったとしても、フレーズごとに理解することで十分カバーできるのです。つまり、知っているフレーズの数が多ければ多いほど、リスニングは楽になるわけです。





●速い英語を聴き取りたい ＜コラム＞

スピードの速い英語を聴き取る際には、以下の点に注意しましょう。



- ・ 後戻りはだめ。頭から意味をとっていく。
- ・ 英語の発音パターンを知る。
- ・ 先を予測しながら聴き、キーワードの前後を聞き逃さない。

自然なスピードの英語を聴き取るためには、フレーズ単位、短いものであれば文単位といったできるだけ大きな枠で意味をとりながら聞く必要があります。決して単語一つひとつを聴き取ろうとしないこと。知っている表現の数が、リスニング力には直接関わってきません。テレビやラジオの英語講座を録音して何度も聴いたり、テープ・CD教材を繰り返し聴くなどして、基本的な表現パターンを覚えていきましょう。

英語は自然なスピードで話されると、単語同士がつながって聞こえたり、音が消えて聞こえない箇所が出てきたりします。これを一語一句はつきりと発音して話すことは、ネイティブにとってはとても不自然なことなのです。

できるだけたくさんの英語を聴いて、正しい発音のパターンを覚えましょう。英会話テープや、テレビやラジオの英語講座を聴くときには、イントネーションやリズム、間のとり方にいたるまで、手本に続けてできるだけ正確に真似て言うようにしましょう。いろいろなフレーズを自分で実際に発声していくうちに、聴き取れる音は着実に増えていきます。

聴き取る題材のテーマがあらかじめわかっているときには、話の先を予測しながら聴いてみましょう。そうすることでリスニングはずいぶん楽しくなります。また、話の中で何度も出てくる言葉があれば、その前後で言っていることを聞き逃さないようにすることです。そうすることで、最低限必要なことは理解することができます。



●効果絶大、シャドウイング・トレーニング ＜コラム＞

聞いた英語を間を置かずにそのまま繰り返すトレーニングがシャドウイングです。これは英語独特のリズムやスピードに慣れるにはうってつけの方法と言えます。また、自分で実際に発声することで、聴き取れていない個所が明確になります。

専門の教材を探してもいいですが、普通の英会話のテープや映画のビデオ、テレビやラジオの英会話講座を録音したものを使ってもいいでしょう。途中で多少ひっかかってもそこで止めてしまわずに、とにかく間を置かずについていくことがポイントです。初めは内容が簡単なものから始め、徐々に難しいものに変えていきましょう。

スピードに関してはあまり遅いものはこのトレーニングには向いていません。初めからある程度の速度で話されているものを使うようにしましょう。

これは通訳学校などでも取り入れられているトレーニング法で、本格的にやるとなると相当の集中力と忍耐力が必要になります。かなりの効果が期待できるトレーニングなのですが、その辛さから長続きしない人がほとんどなのが現実です。



だからといって諦める必要はありません。家で映画をビデオなどで見ているときに、最高にかっこいい場面でヒロインが発したクールな台詞を真似て言ってみたことはありませんか？それも立派なシャドウイングです。難しく考えずに気軽な気持ちでやってみましょう。嫌ならやめてしまえばいいのです。勉強法はこれだけではないのですから。



●英語で考えることが会話上手への道 〈コラム〉

英語で考えるようになれば大したもの、とよく言います。「英語で考える」とは、どういうことなのでしょう？ 聞いた英語を、情報をもつ音としてそのまま理解できるようになること、さらには日本語を考えるとなしにダイレクトに英語で自分の言いたいことを思い浮かべるようになれば、英語で考えていると言えるでしょう。

そのためにはまず、簡単な短い文を聴いて、一言二言の短い文で返す練習をしましょう。

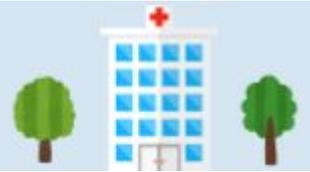
例えば

How are you?	(元気?)
-- Fine thank you.	(元気だよ)
-- Not bad.	(まあまあだよ)
-- Pretty good.	(絶好調さ)

Are you okay?	(大丈夫?)
-- Yes, I'm fine.	(ああ、平気だよ)
-- No, not really.	(大丈夫じゃないよ)
-- Don't worry.	(心配いらぬよ)

といった具合です。こういった簡単な一言であれば、聞いた英語の音を直接情報として理解し、即座に答えることもたやすくなります。まずはこのレベルから始めて、語いを増やすなどして総合的な英語力を伸ばしながら、徐々にレベルを上げていけばいいのです。

英文を読むときにも、後ろから訳すのではなく、頭から語群ごとに意味をとっていきようにしましょう。英語を話されたままの順序で理解できるようにすることが、英語で考えることへの第一歩です。



●忘れてもいい。単語は何度もやり直せ。 ＜コラム＞

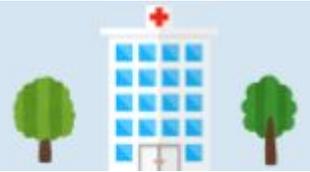
「この単語の意味、知っていたはずなのに忘れちゃった」なんてことがよくありますね。でも、一度は知っていたことがわかっているなら大丈夫です。これこそが覚えることへの第一歩なのですから。

きちんと覚えられるまで何度でも単語を忘れましょう。単語の意味を3回忘れたら、もう3回辞書を引くだけのこと。このようにして少しずつ確実に自分のものにしていけばいいのです。

また、単語の意味を調べるときには、英英辞書を使ってみましょう。単語の意味がわかるだけでなく、英語の定義を読むことで、いろいろな英語表現まで覚えられます。単語の意味を忘れる度に新しい表現が覚えられる英英辞典は、一石二鳥の最高の参考書でもあるのです。

自分なりに使い方を工夫して、書き込みも自由にしてしまいいましよう。英英辞典なんて使いこなせない、と心配している人も多いことでしょう。でもご心配なく。ほとんどの辞書がシンプルなわかりやすい英語で語句の定義をしているため、慣れれば意外に簡単に使いこなせます。語句の定義に使う単語数を制限している学習者向けの親切な英英辞書もあります。是非とも一冊は持っていたいものです。





●単語の効果的な覚え方

<コラム>

ネイティブ・イングリッシュ・スピーカーの平均的な5歳児の語彙は2,500から2,800語とされています。これが6歳児になると13,000語。7歳児にいたっては、20,000から26,000語理解するとされています。ネイティブであれば、7歳児があたりまえのようにできていることなのに、第2外国語で20,000語マスターすることは、気が遠くなるほど大変なことです。

やみくもに単語を覚えようとしても、それではなかなか頭に入ってくれません。そのときは覚えたつもりでも、一晩で忘れてしまうのが関の山です。

まずは自分が興味を持っている分野のボキャブラリーを増やしてみるようにしてみましょう。例えば、野球が好きなら野球に関する単語、コンピュータが好きならコンピュータに関する単語、といった具合に分野を絞って単語を覚えるのです。興味のある分野の単語なら、覚えも格段に早くなります。分野別に集めた単語をまとめて自分なりの辞書を作ってみてもいいでしょう。

単語を覚えるときには、意味だけを単独で覚えるのではなく、フレーズや文の中での使われ方に注意しながら覚えるようにしましょう。意味だけわかっていても、使い時がわからなければ宝の持ち腐れです。

単語はスペルよりも発音に重点を置いて覚えることをおすすめします。パソコンがあればスペルミスは簡単に正すことができますが、読み方がわからなければ会話中に使いたくても使えません。辞書ソフトには発音を音声で教えてくれるものもたくさんあるので、そういったものも十分活用しながら、実際に声に出して発声しながら新しい単語を覚えるようにしまし
しょう。





●英語はイディオムでできている ＜コラム＞

英語はすべてがイディオムだといっても過言ではありません。イディオムの中には、文法にそっていないものもありますが、どのような場合も文法よりもイディオムが優先されます。

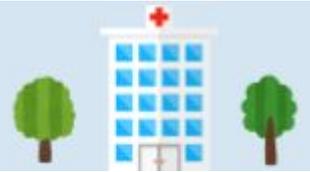
イディオムの中には、それを構成する単語からは想像もできないような意味をもつものもたくさんあります。推測不能の、知らなければ絶対にわからないイディオムです。

いくつか面白いものを挙げておきましょう。なぜそう言うようになったのかを考えてみてください。



* Once in a blue moon	めったに～しない
* Paint the town red	飲んでうかれ騒ぐ
* Green with envy	ひどくうらやんでいる
* A white lie	罪のないうそ
* A piece of cake	簡単にできること
* Sell like hotcakes	飛ぶように売れる
* Bring home the bacon	成功する
* Spill the beans	秘密を漏らす
* Cool as a cucumber	落ち着き払って
* A rat race	激しい生存競争
* Monkey business	いんちき

イディオムをすべて覚えるのは大変なことです。イディオムは単独で覚えようとはせずに、リスニングとリーディングを通じて自然に身につけるようにしていきましょう。



●洋楽と一緒に歌ってフレーズを覚えよう 〈コラム〉

歌の歌詞に出てくる英語フレーズならいくらでも頭に入ってくれます。メロディが記憶しやすくしてくれるからです。曲に合わせて鼻歌まじりで歌っているうちに、意味はよくわかっていないのに歌詞を覚えてしまっていたなんてことはありませんでしたか？ そうなればしめたものです。意味は後から簡単に調べられますし、このようにメロディにのせて覚えたフレーズは頭の中に定着しやすいのです。

どんな歌を聴けばいいのでしょうか？ バラード、ロック、カントリー？ 自分の好きなものなら何でもいいのです。頭の中で歌詞を映像化しながら聴いて歌ってみましょう。歌詞と映像とを一体化させながら口ずさんでいれば、覚えるのも早いし、使い時
もわかるので実際にそのフレーズを使うときになって戸惑うことも少なくなります。

一緒に歌って素敵なフレーズをたくさん覚えましょう。覚えたかっこいいフレーズを実際に使える日を楽しみに。





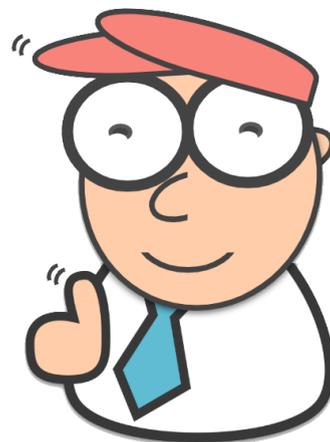
●英語はあくまでも外国語、母国語のようにはいかない。

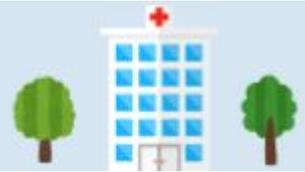
<コラム>

日本人にとって英語は外国語であって母国語ではありません。だから、うまく話せないことを恥じる必要などどこにもないのです。日本で生活する外国人を見てください。カタコトの日本語でも、堂々と積極的に話し掛けてきます。うまく話せないから恥ずかしい、などという考えは彼らにはないのです。誰かとコミュニケーションしたいと心から思っているのであれば、そんな余計な心配などしている暇はないはずです。そもそも、会話の目的はうまく話すことではありません。気持ちや必要なことを相手に伝えることが会話本来の目的のほうです。

ネイティブのように話す必要などありません。発音が悪かったり、文法が間違っていたとしても、意味が相手に正しく通じているのであれば、それで立派に会話は成り立っているのです。初めはうまく話せないのがあたりまえ。時には開き直りも大切です。自分なりにコミュニケーションする努力を根気良く続けていれば、知らず知らずのうちに英語力はついてくるものです。

英語に標準語などというものは存在しません。77もの国が英語を母国語としていて、国や地域によってその英語にも違いが見られます。ネイティブ同士でも、国や地域が違えばうまくコミュニケーションできないことすらあるのです。英語にはいろいろなバラエティがあります。自分の英語を恥じることはありません。自信を持って堂々と自分のスタイルを貫きましょう。





●目標を持てば英語学習はうまくいく ＜コラム＞

語学学習は達成感が得られないものだと言われます。英語を習得しようとしていると、覚えなければならないことが次から次へと出てきて、まったく終わりが見えてきません。また、せっかく新しい表現を覚えても、使い道がなにもなかったりします。そういった理由から、何を目標にすればいいのか、何を励みに学べばいいのかがわからなくなってしまう人もいることでしょう。



そんなときは、自分なりにちょっとした目標を立ててみましょう。具体的な目標を持って取り組むのです。英検やTOEICといった検定試験などは、年に何回も受けられるのでチャレンジとしてはおあつらえ向きです。また、英語の本を一冊読む、お気に入りの洋楽CDに入っているすべての曲の歌詞を覚える、といったものでもいいでしょう。とにかく、無理なく取り組めるチャレンジを自分なりに設定してみるのです。目の前に具体的な目標が見えていれば、俄然やる気が出てきます。

自分に課したチャレンジを達成することができたら、そのつど自分に褒美を与えるようにしましょう。新しい服や靴を達成記念に買ってみたり、洒落たレストランで食事したり…。そういった楽しみがあれば、勉強にも張りがでてきます。

＜Your first challenge !＞

手始めに、こんなチャレンジはどうでしょう。わたしの好きな諺や有名な格言を10個集めてみました。自分で意味を調べて、10個すべてを完璧に覚えましょう。さあ、あなたなら、どんなご褒美を自分に用意しますか？



- ① Love conquers all.
- ② Life has its ups and downs.
- ③ A friend in need is a friend indeed.
- ④ All for one and one for all.
- ⑤ Well done is better than well said.
- ⑥ The best wealth is health.
- ⑦ Talk is cheap.
- ⑧ Patience is a virtue.
- ⑨ When the iron is hot, strike.
- ⑩ Good fences make good neighbors.

● a or the? 冠詞は重要? ＜コラム＞

冠詞は確かに重要です。でも冠詞の感覚を完全にマスターするのは英語を母国語としない人にとってはとても大変なことです。これは徐々に身についていくものですから、とりあえずはあまり神経質にならないようにしましょう。完璧に冠詞を使えている人など、ネイティブでもないかぎりはありませんが現実なのです。

英文を読むとき、多くの人がまったくと言っていいほど冠詞に注意を払っていません。これも冠詞の感覚がいつまでも身につかない原因の一つだと思われます。冠詞や前置詞といった機能語は、名詞や動詞といった内容語に比べると見過ごされがちなのです。英文を読むときには、冠詞の使われ方にもっと注目しながら読むようにしてみましょう。

まずは、文章に出てきた冠詞にアンダーラインを引いたり、マルをつけることから始めましょう。このようにして意識的に冠詞の使われ方に注目していれば、次第に冠詞の感覚は身についていきます。

